

令和6年度 環境放射線測定結果

(令和6年4月～令和7年3月)

令和6年度（令和6年4月～令和7年3月）

環境放射線測定結果

① 測定所での監視

1. 空間放射線空気吸収線量率
2. 浮遊じん中の全 α ・ β 放射能

② 環境放射能測定車、環境放射線調査車での監視

1. 環境放射能測定車による測定
2. 環境放射線調査車による測定

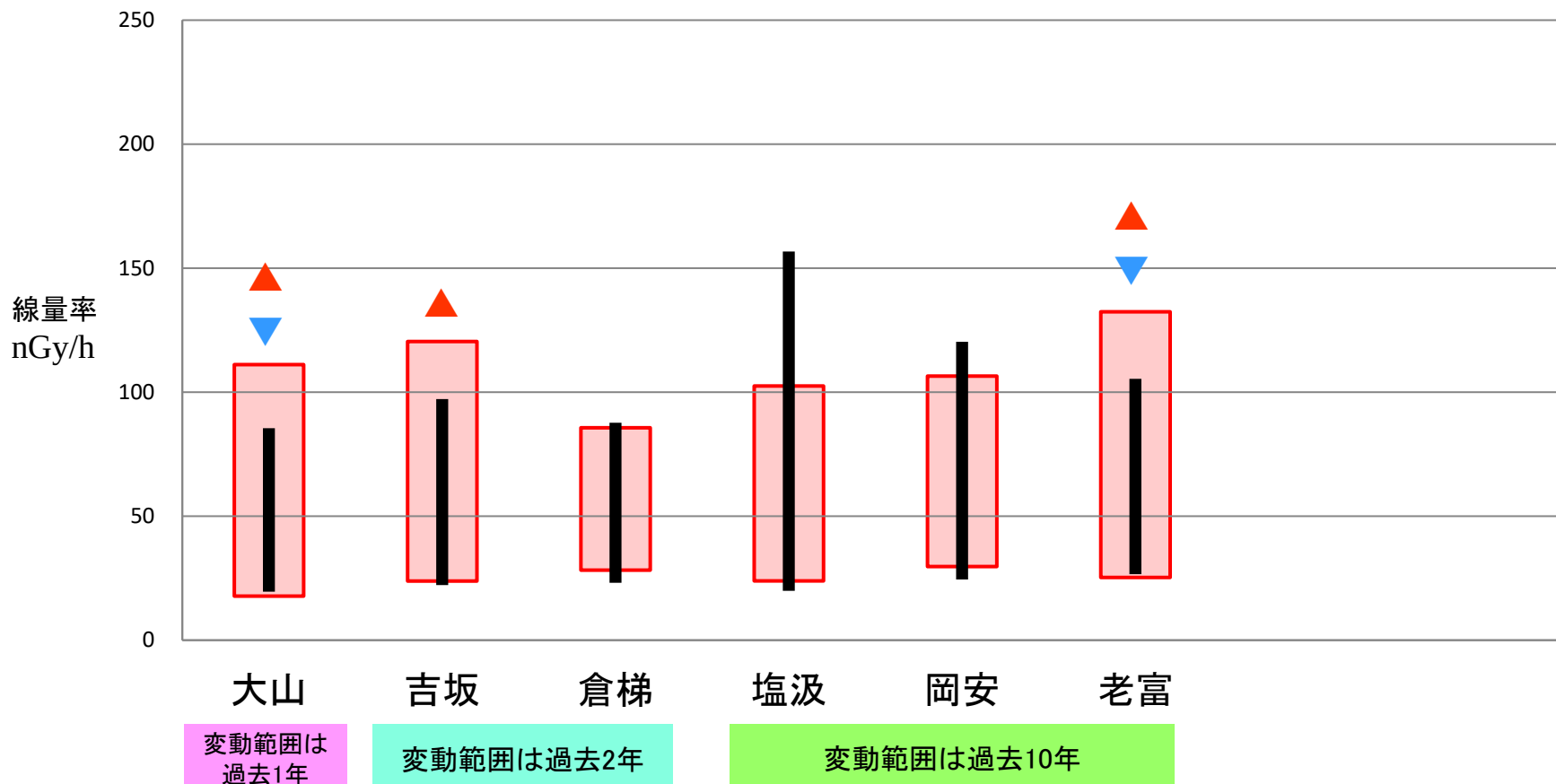
③ ガンマ線放出核種分析、トリチウム、プルトニウム、ストロンチウム分析結果

空間放射線空気吸収線量率 測定結果

- 7箇所の測定所で過去*の変動範囲を超過し、他は過去*の変動範囲内でした。
- 線量率の過去*最大値超過は全て降雨雪等に伴うものと考えられる。（*過去＝10～1年）
（スペクトルに人工放射性核種が認められない）

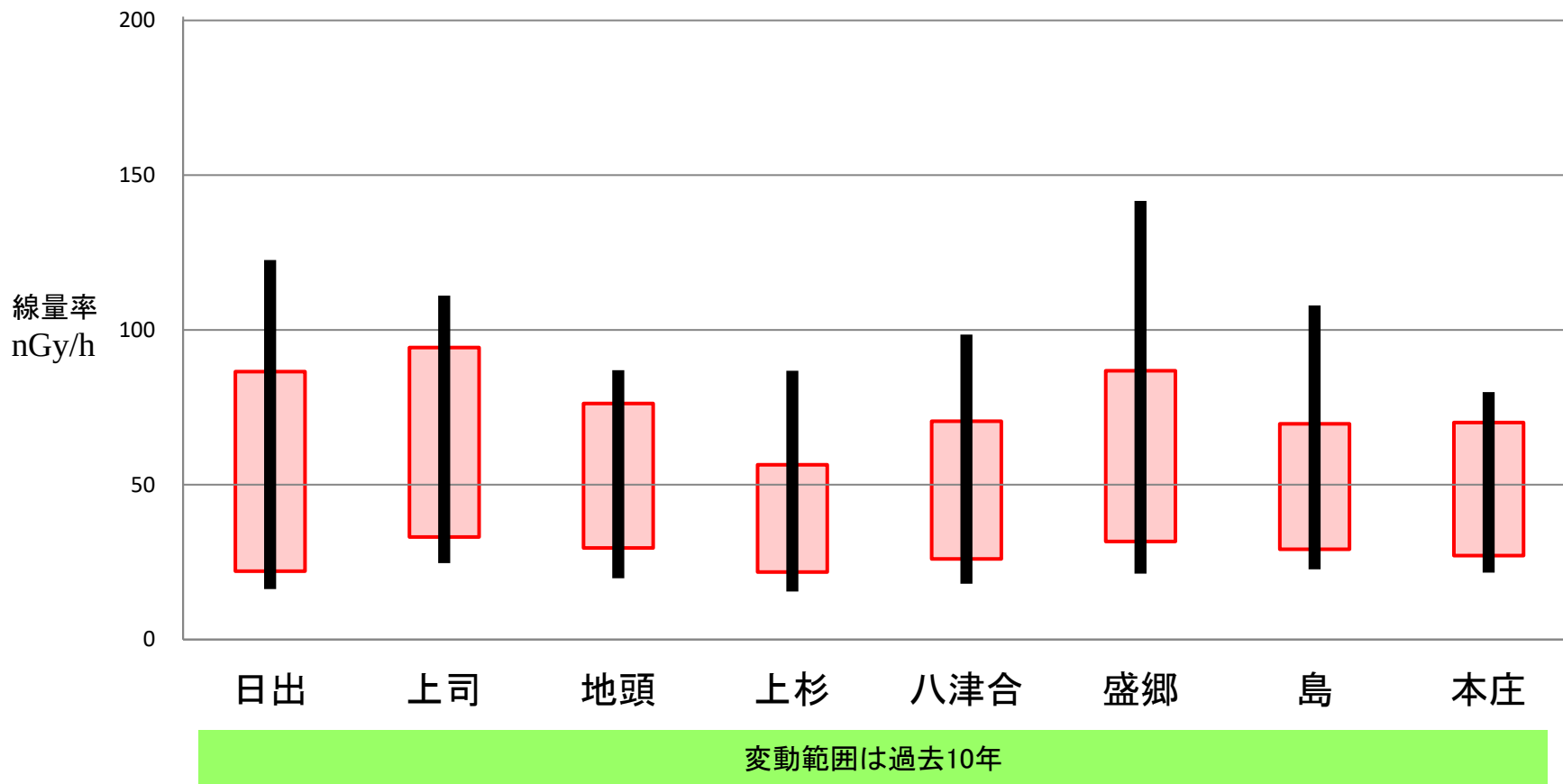
（資料 3 － 2 p.1-11）

周辺局(1／2)



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 過去の変動範囲の最大～最小。
 三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。

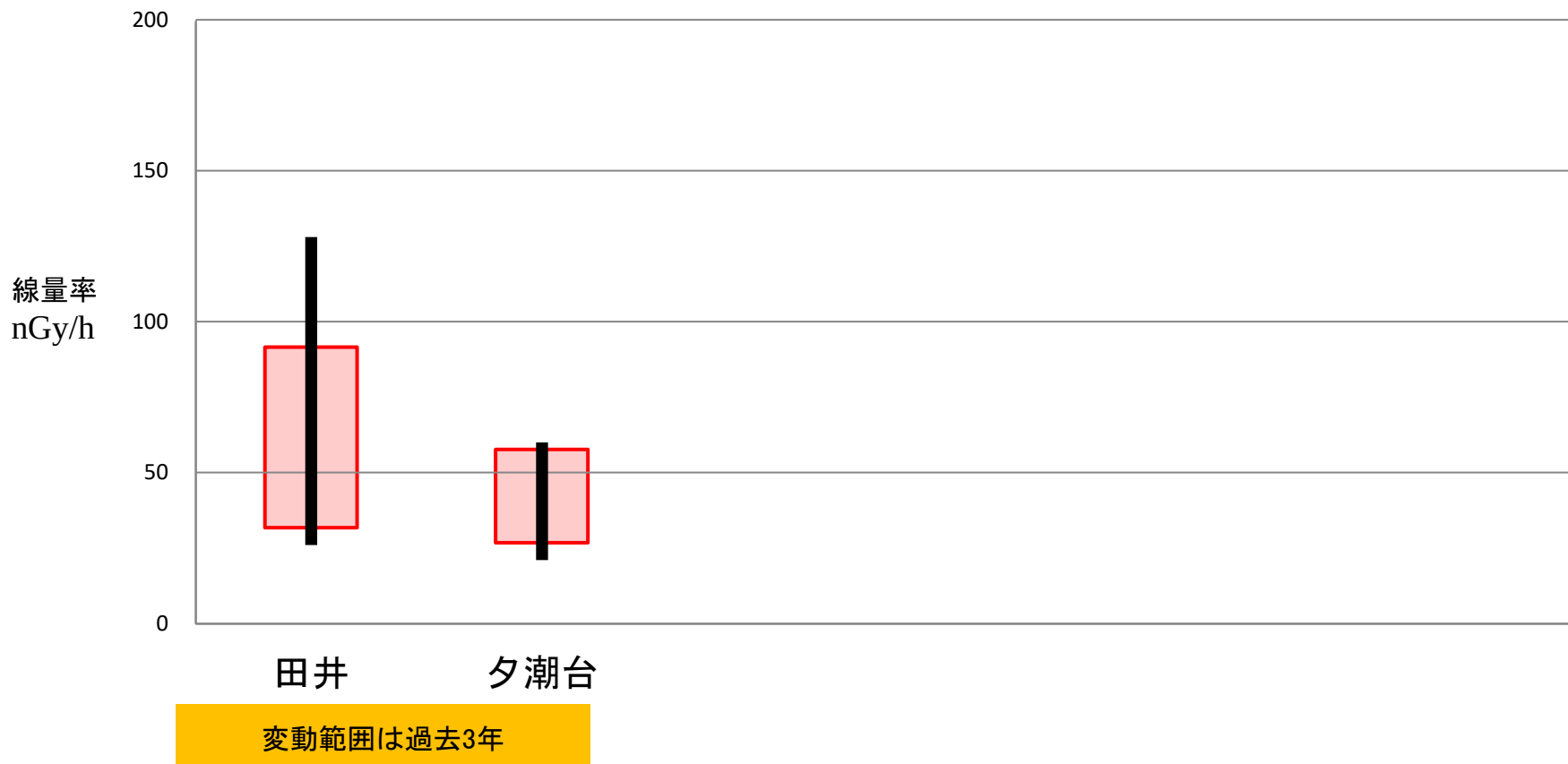
周辺局(2/2)



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 過去の変動範囲の最大～最小。
 三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。

空間放射線 空気吸収線量率 測定結果（令和6年度）／関西電力

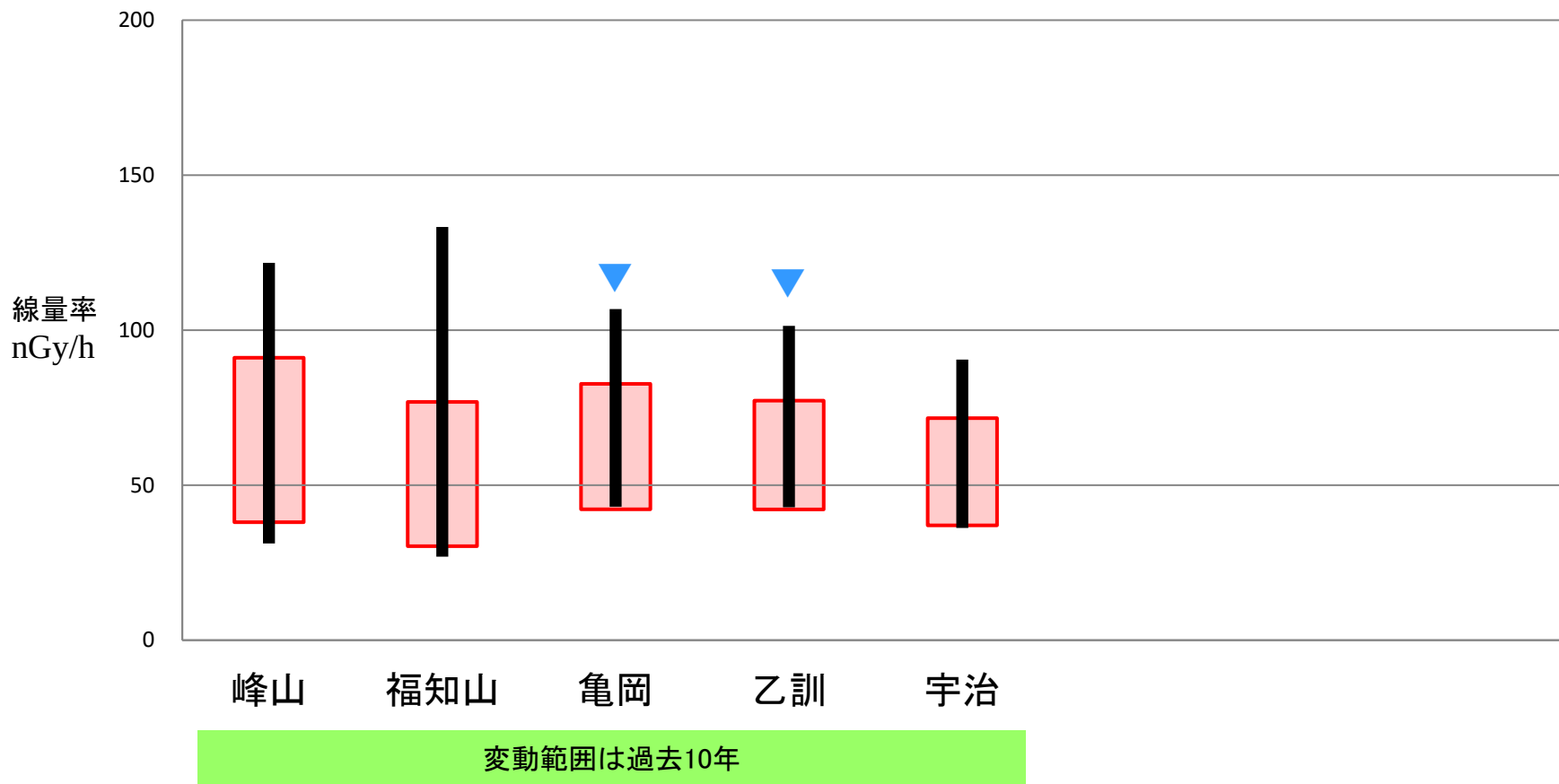
関西電力



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 過去の変動範囲の最大～最小。
三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。

空間放射線 空気吸収線量率 測定結果（令和6年度）／府独自

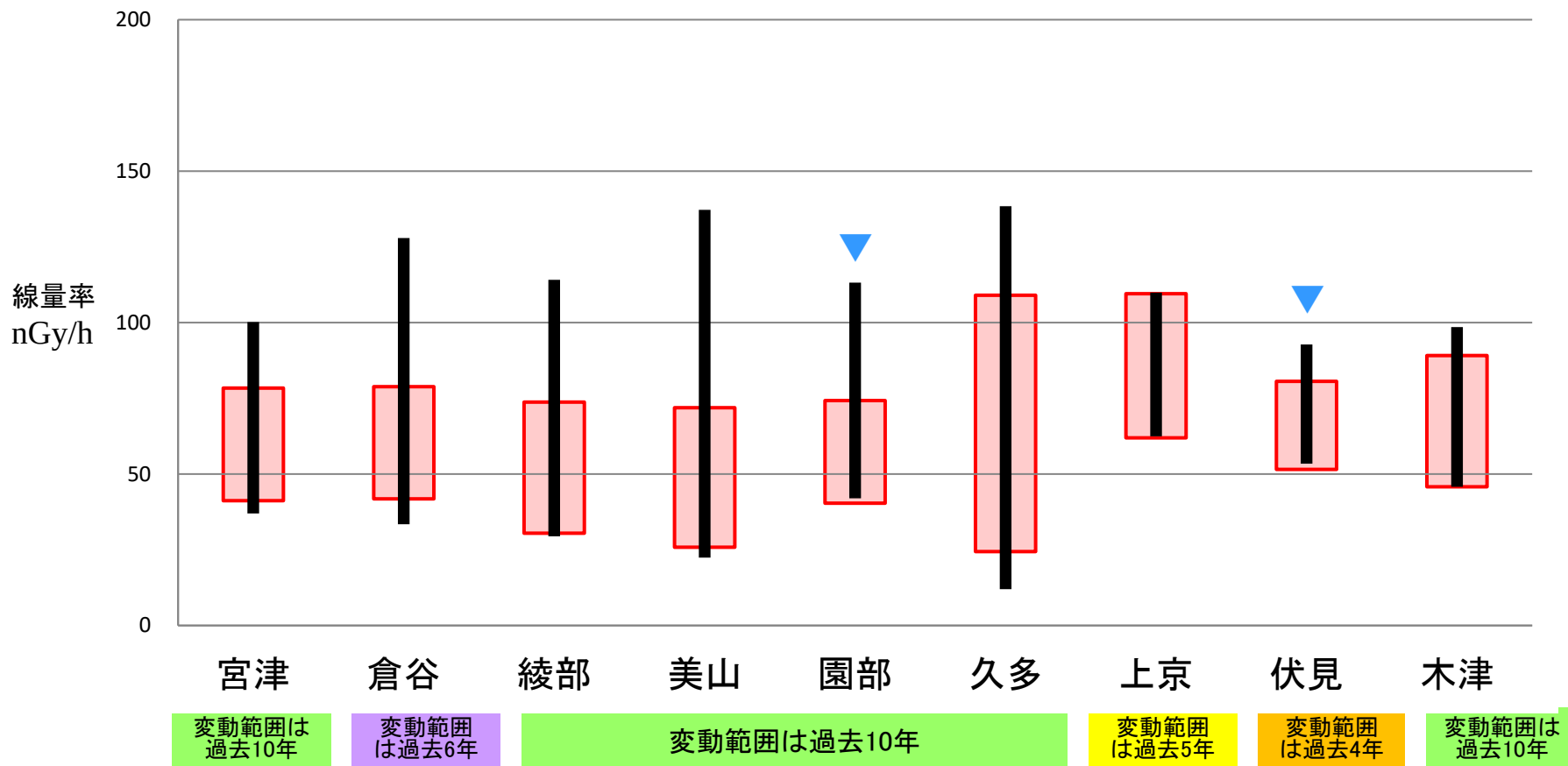
府独自設置局



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 過去の変動範囲の最大～最小。
三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。

空間放射線 空気吸収線量率 測定結果（令和6年度）／水準

水準調査局



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 過去の変動範囲の最大～最小。

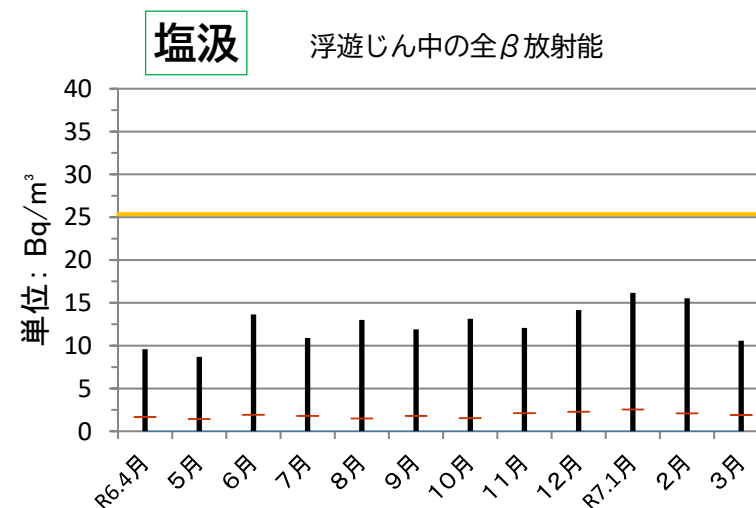
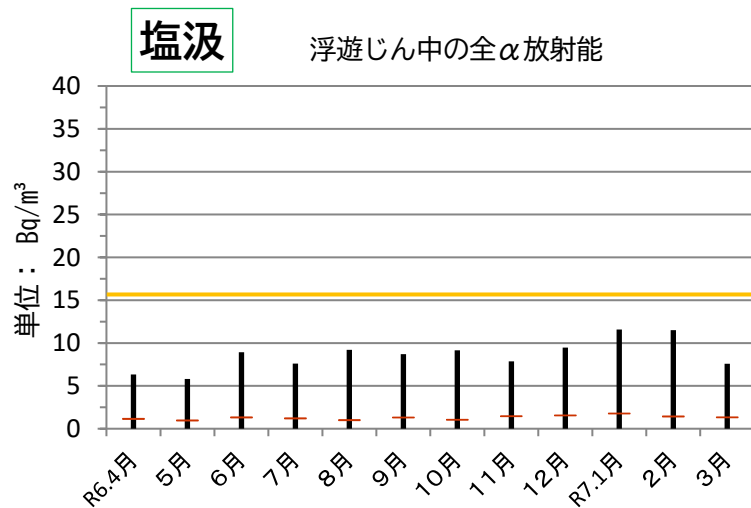
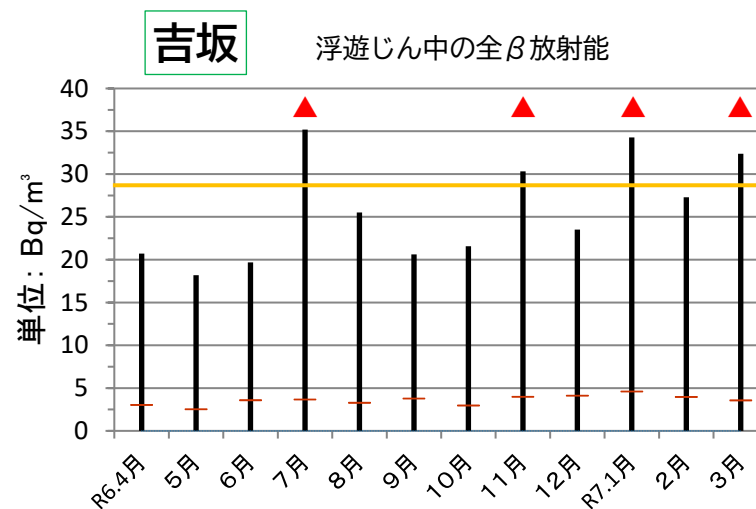
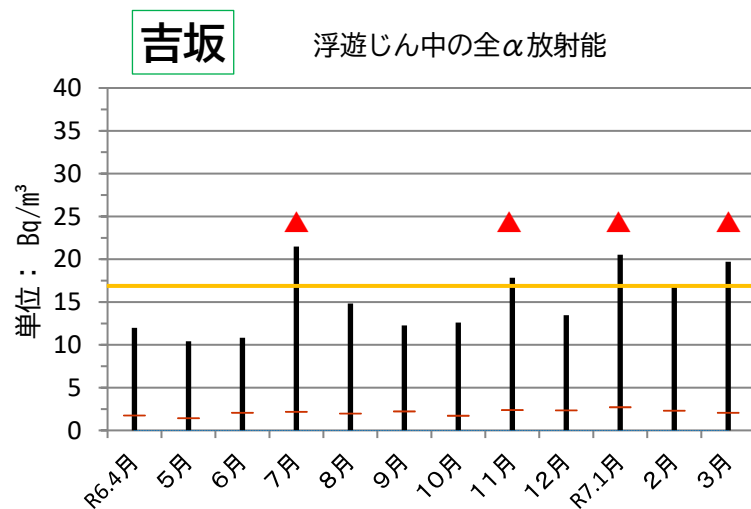
三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。

浮遊じん中の全 α 、全 β 放射能 測定結果

- 吉坂測定所において、全 α 及び全 β 放射能が過去1年間の最高値を超過しましたが、基準値 β / α 比より小さい値でしたので、天然核種に由来するものと考えられます。

浮遊じん中の放射能測定結果（令和6年度）

資料3-2 p.12



横棒(—)：月平均値。 縦棒(|)：各月の最大～最小。
三角(▲)印：変動範囲を超過。

橙線(—)：変動範囲（過去1年間の最大）。

令和 6 年度（令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月）

環境放射線測定結果

① 測定所での監視

1. 空間放射線空気吸収線量率
2. 浮遊じん中の全 $\alpha \cdot \beta$ 放射能

② 環境放射能測定車、環境放射線調査車による監視

1. 環境放射能測定車による測定
2. 環境放射線調査車による測定

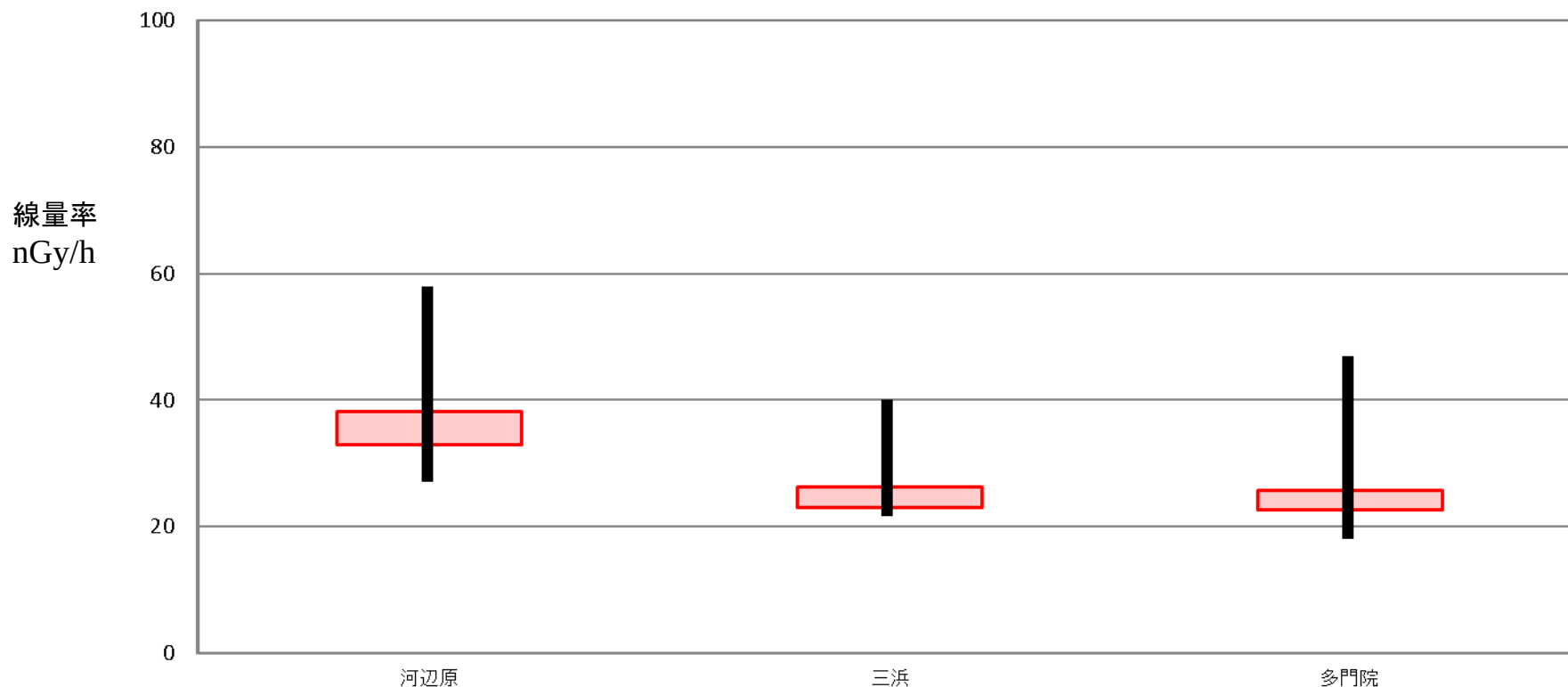
③ ガンマ線放出核種分析、トリチウム、プルトニウム、ストロンチウム分析結果

環境放射能測定車による測定結果

- 空間放射線空気吸収線量率
→可搬型モニタリングポストで測定。各地点の測定値は、過去の変動の範囲内。
- 空間 γ 線スペクトル
→人工核種は、三浜及び多門院で各 1 回 Cs-137が検出された。その他は全て計数誤差の3倍以下。

(資料3－2 p.13)

環境放射能測定車 線量率測定結果



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)。
三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。 可搬型モニタリングポストで測定。

環境放射線調査車による測定結果

➤ 定点での測定

→令和5年度までモニタリングカーを用いて測定した34地点で過去の最大値を超過。

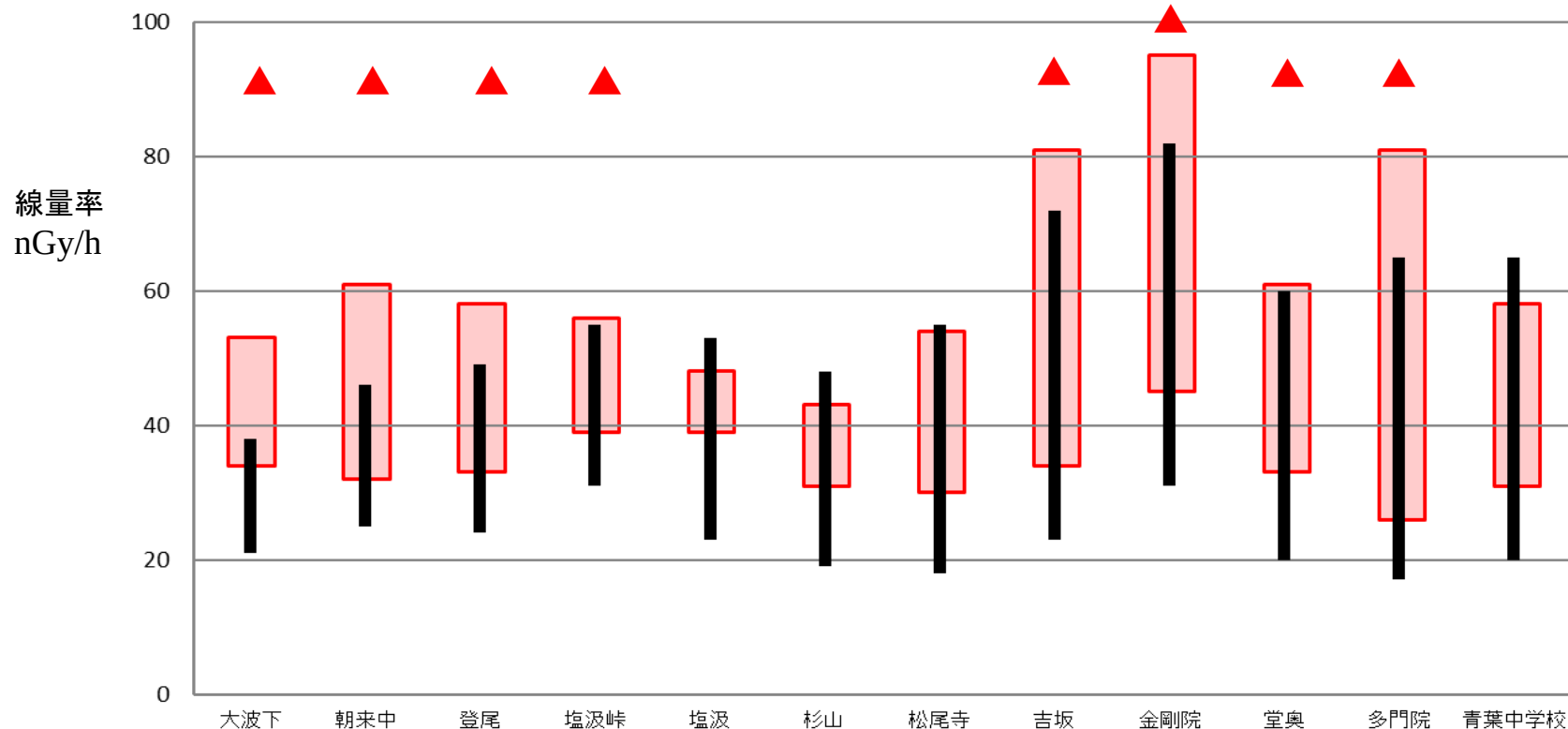
➤ ルート走行中の線量率の変化。

→従来と同様の傾向

(資料3－2 p.14-17)

環境放射線調査車 線量率測定結果

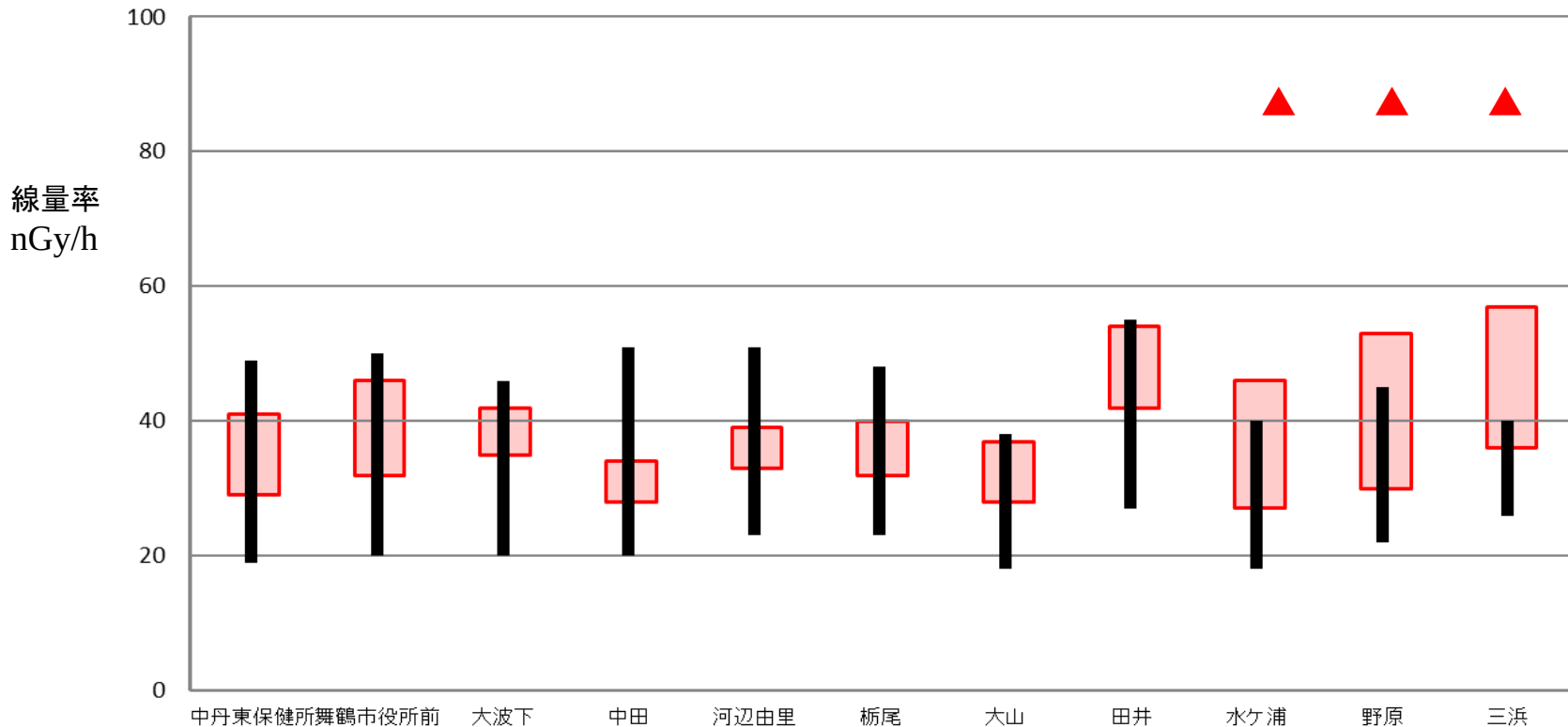
東舞鶴地域 ルート1



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
 三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果

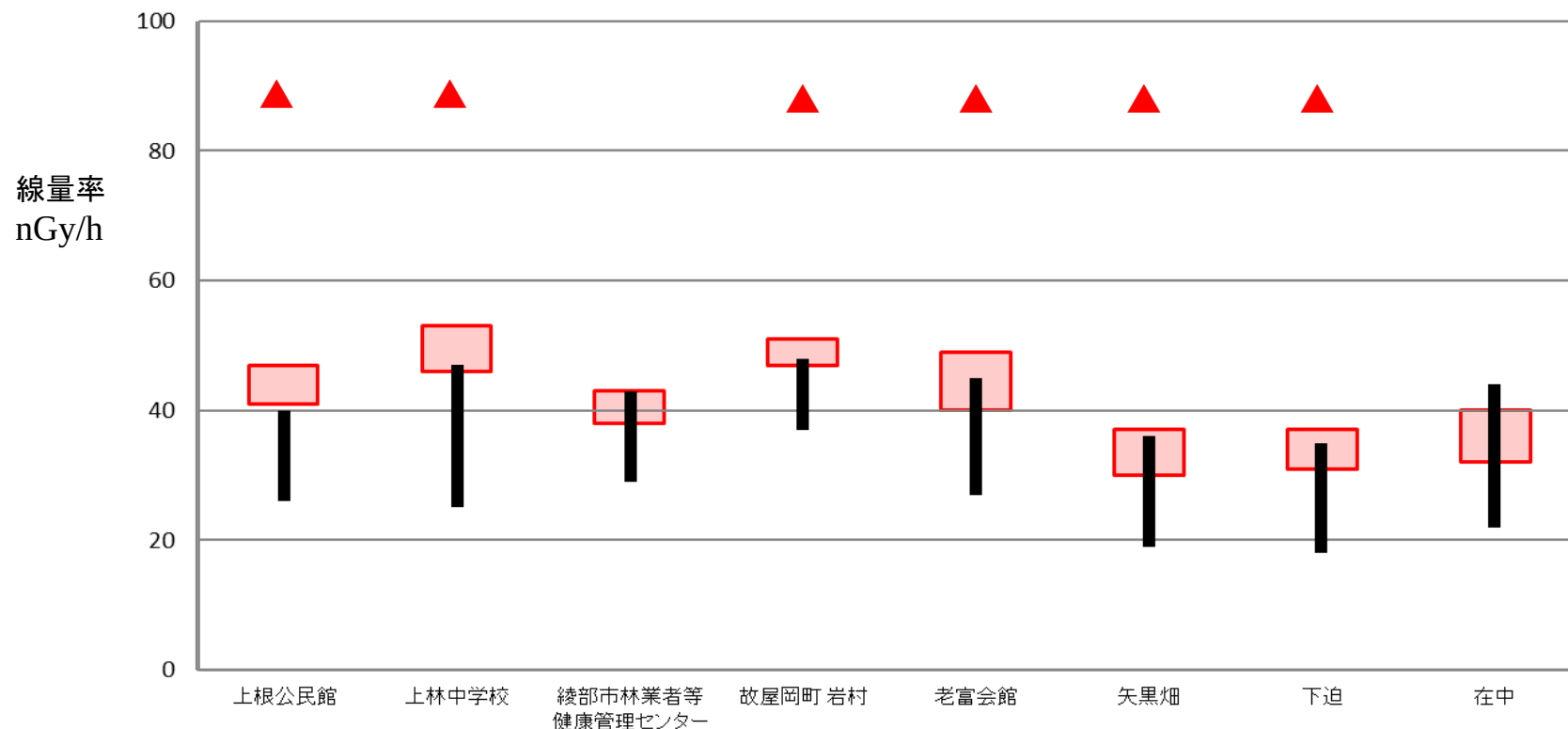
東舞鶴地域 ルート2



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果

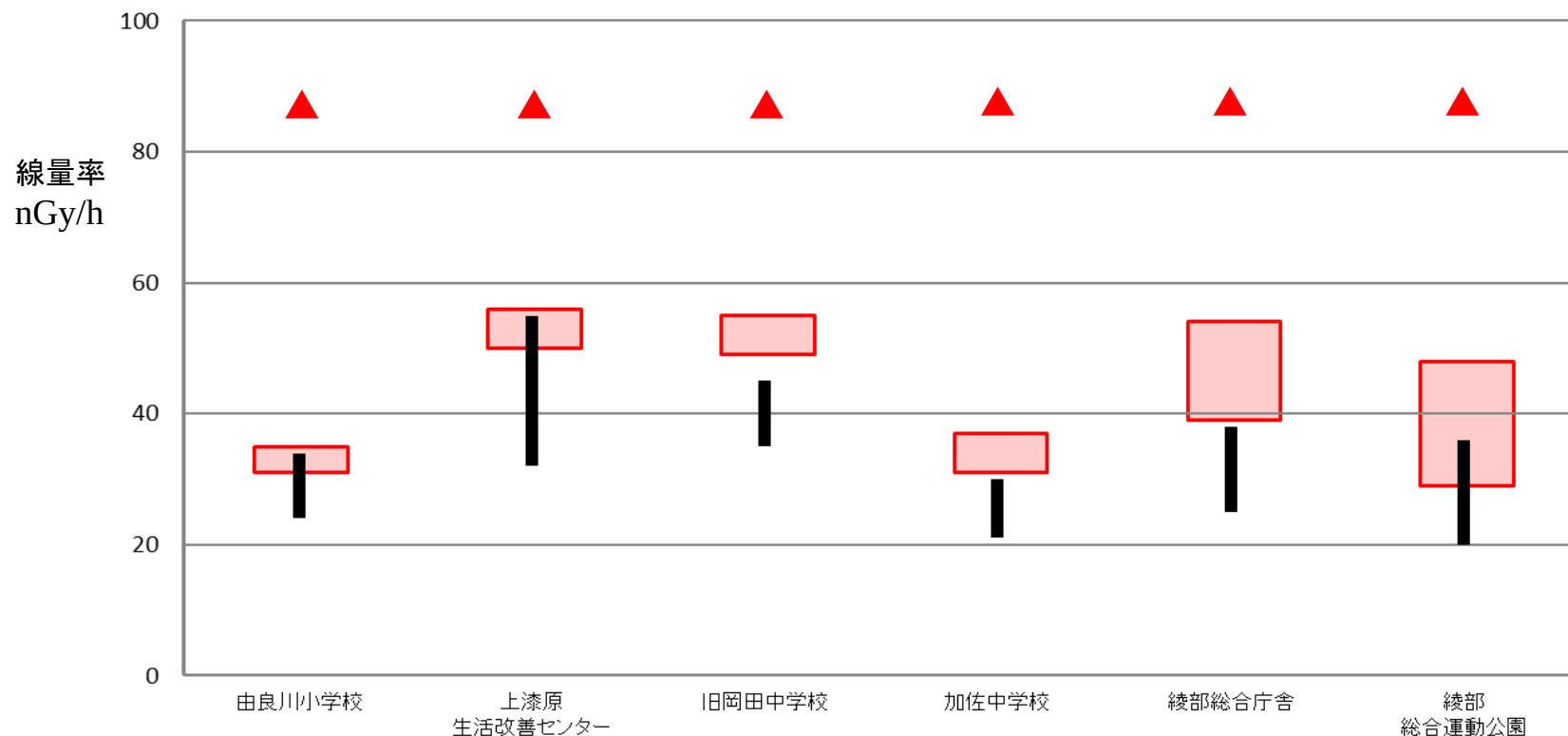
綾部老富地区 ルート3



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
 三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

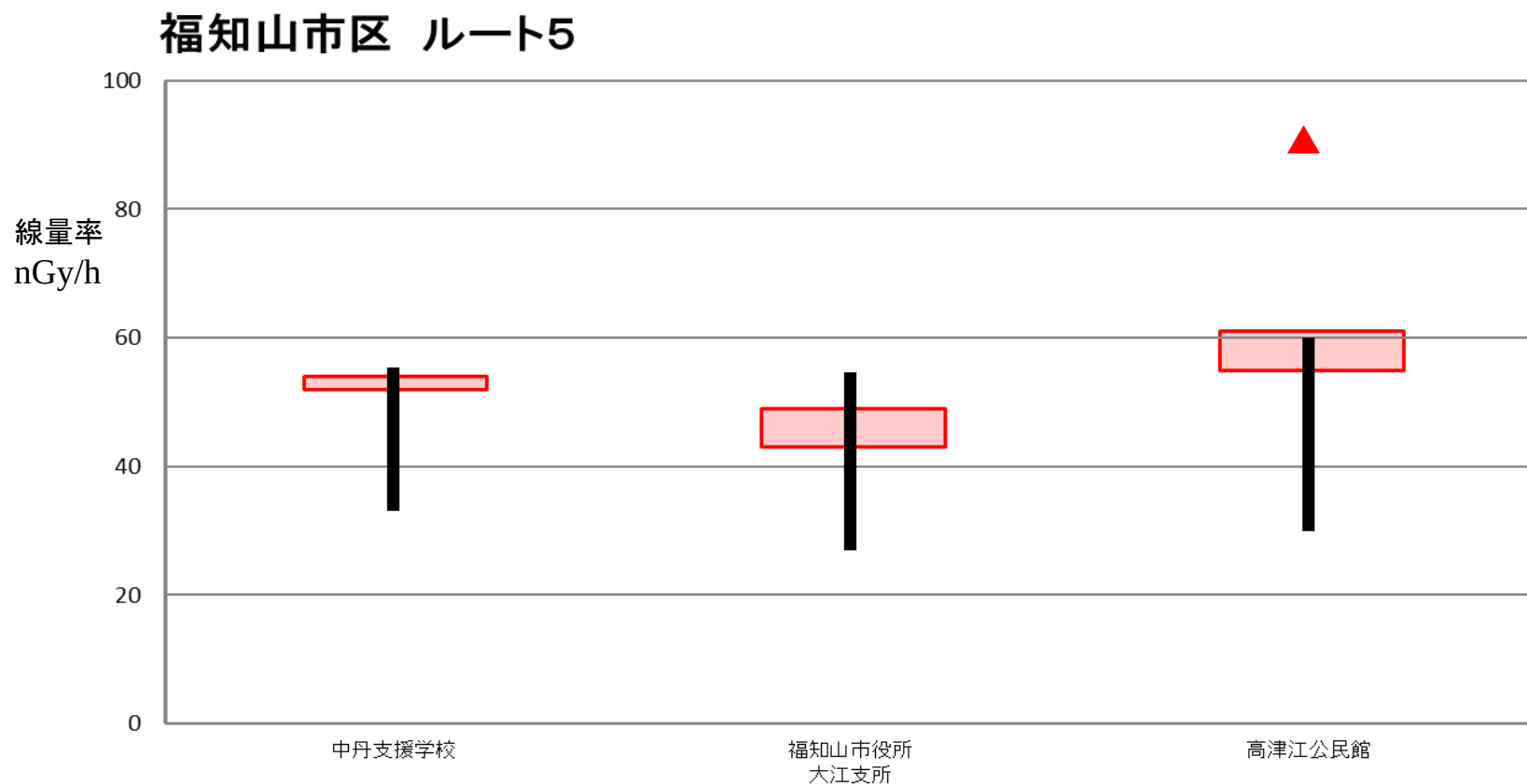
環境放射線調査車 線量率測定結果

綾部・西舞鶴地域 ルート4



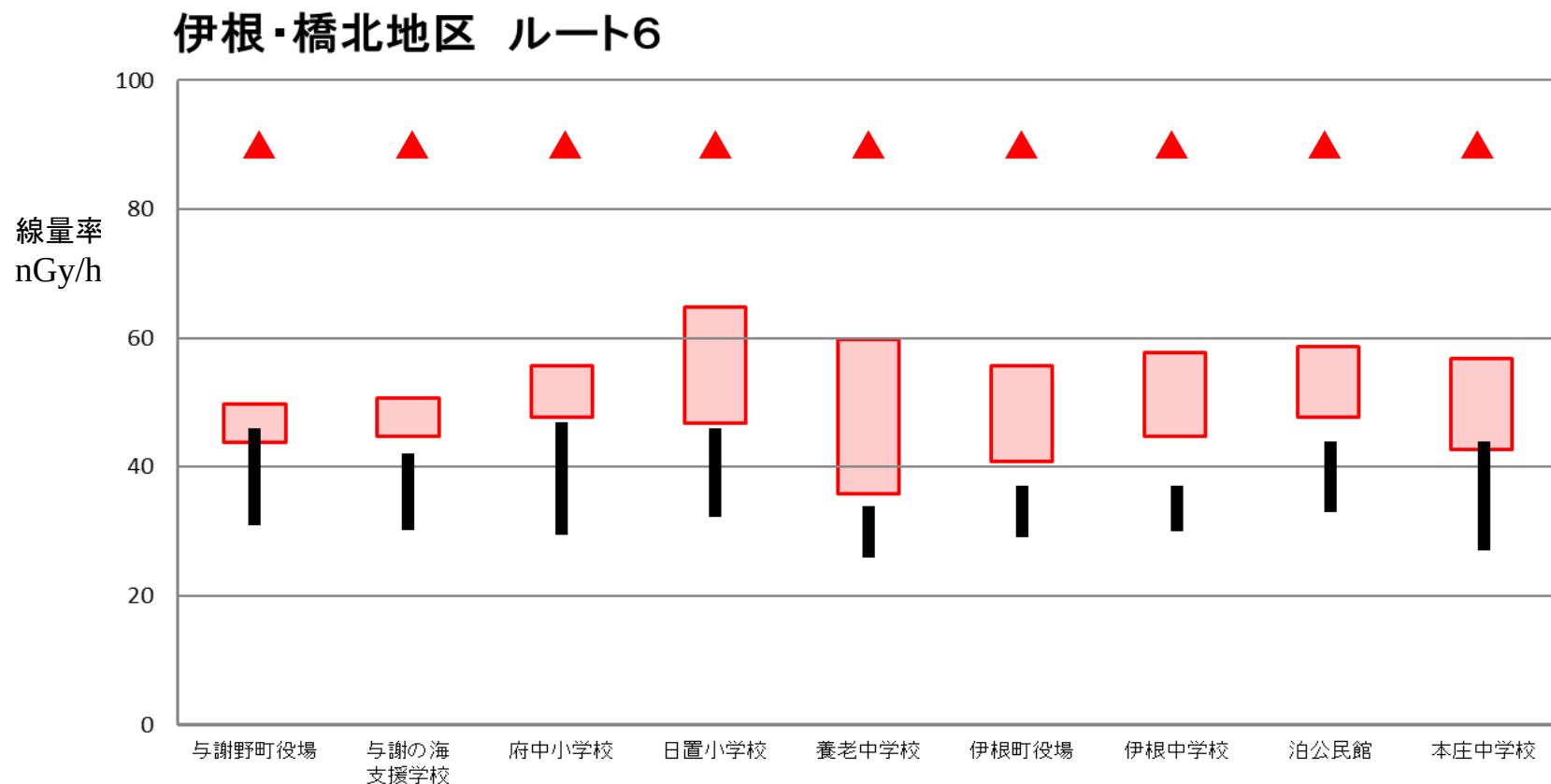
赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
 三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

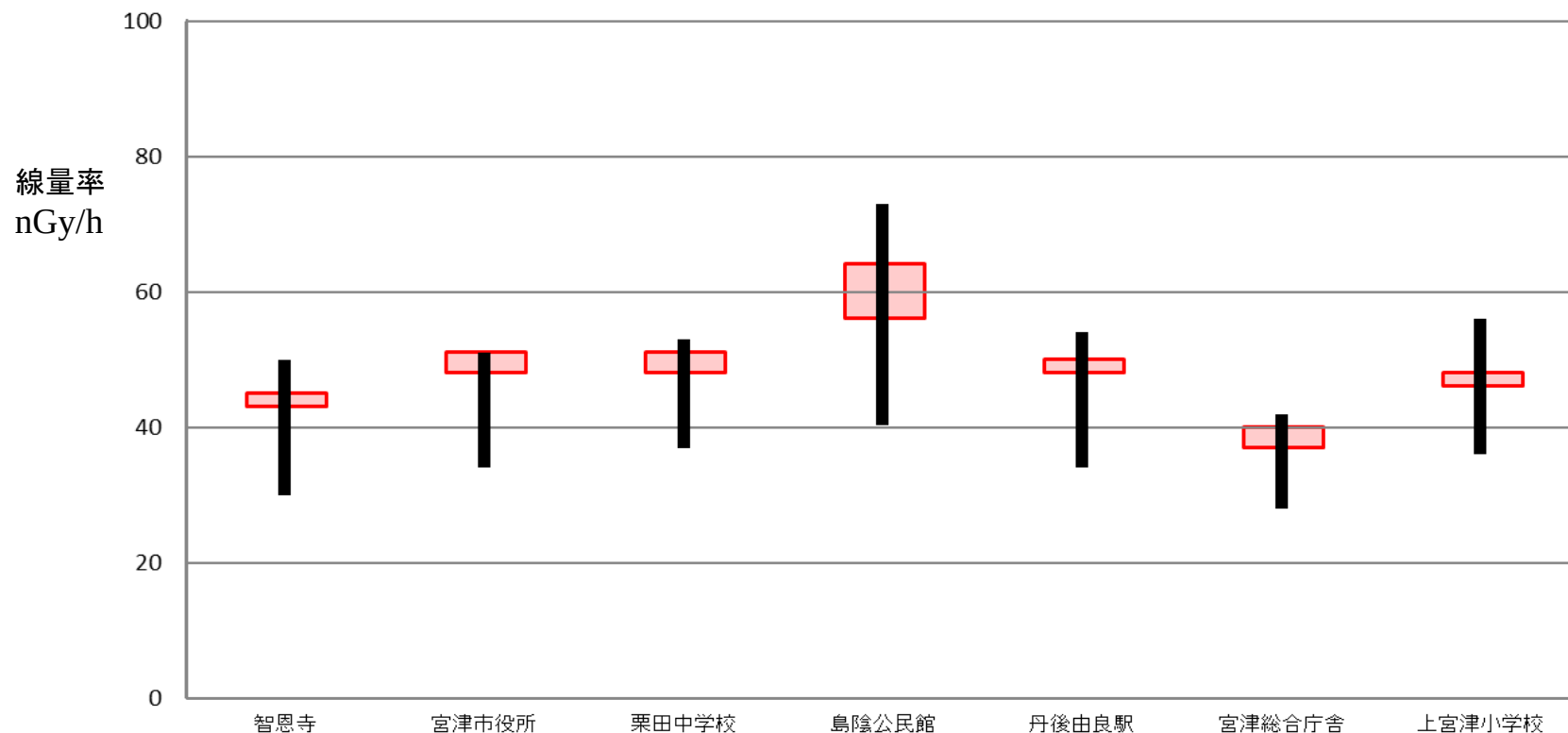
環境放射線調査車 線量率測定結果



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
 三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果

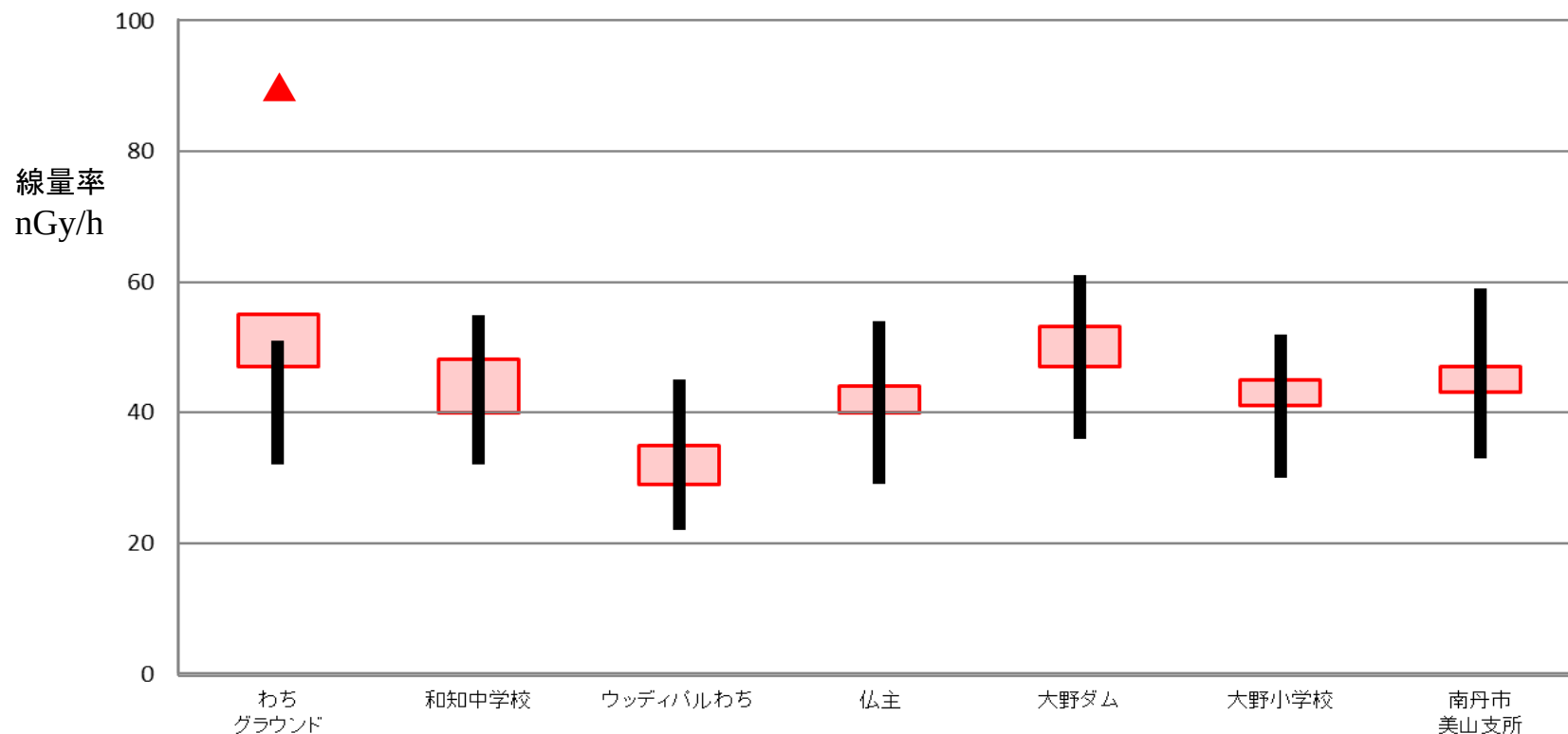
宮津・栗田・由良地区 ルート7



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果

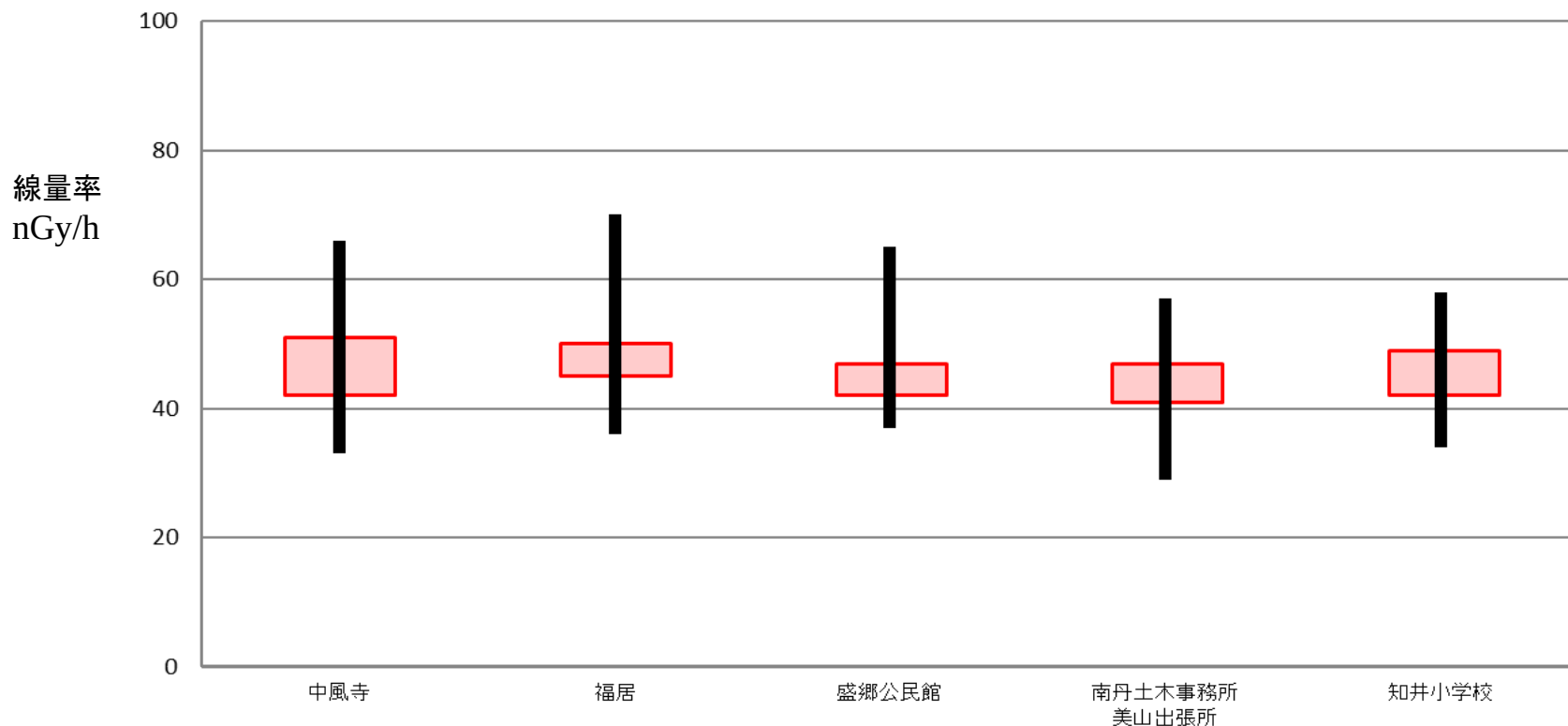
京丹波町地域 ルート8



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果

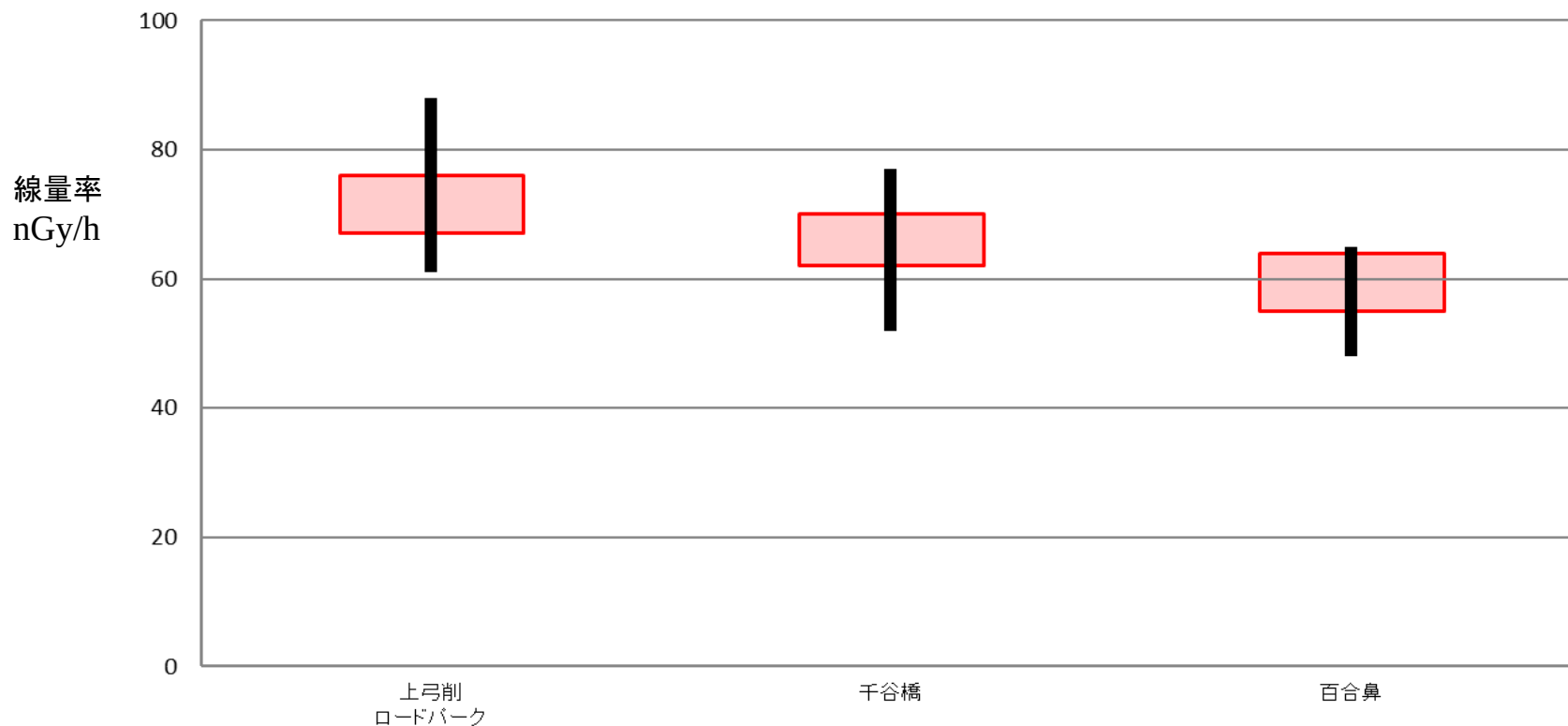
南丹市美山町地域 ルート9



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果

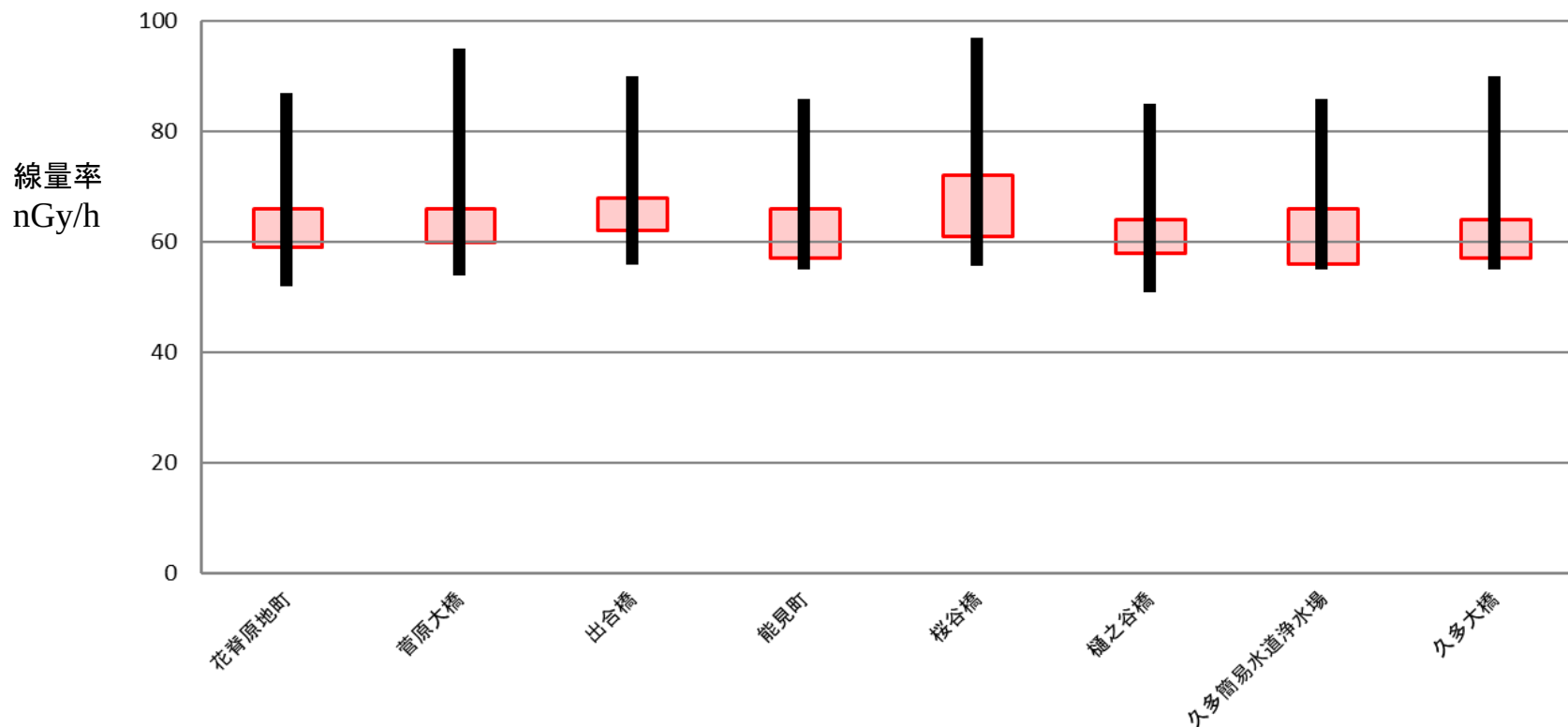
京都市上弓削町地域 ルート10



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去3年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過 過去3年間はNaIシンチレーションサーベイメータで測定。

環境放射線調査車 線量率測定結果

広河原・久多地域 ルート11



赤長方形(□): 令和6年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去3年間の最大～最小)
 三角形(▲、▼): 変動範囲を超過 過去3年間はNaIシンチレーションサーベイメータで測定。

令和 6 年度（令和 6 年4月～令和 7 年3月）

環境放射線測定結果

- ① 測定所での監視
 - 1. 空間放射線空気吸収線量率
 - 2. 浮遊じん中の全 $\alpha \cdot \beta$ 放射能
- ② 環境放射能測定車、環境放射線調査車での監視
 - 1. 環境放射能測定車による測定
 - 2. 環境放射線調査車による測定
- ③ ガンマ線放出核種分析、トリチウム分析、ストロンチウム分析結果

ガンマ線放出核種分析結果

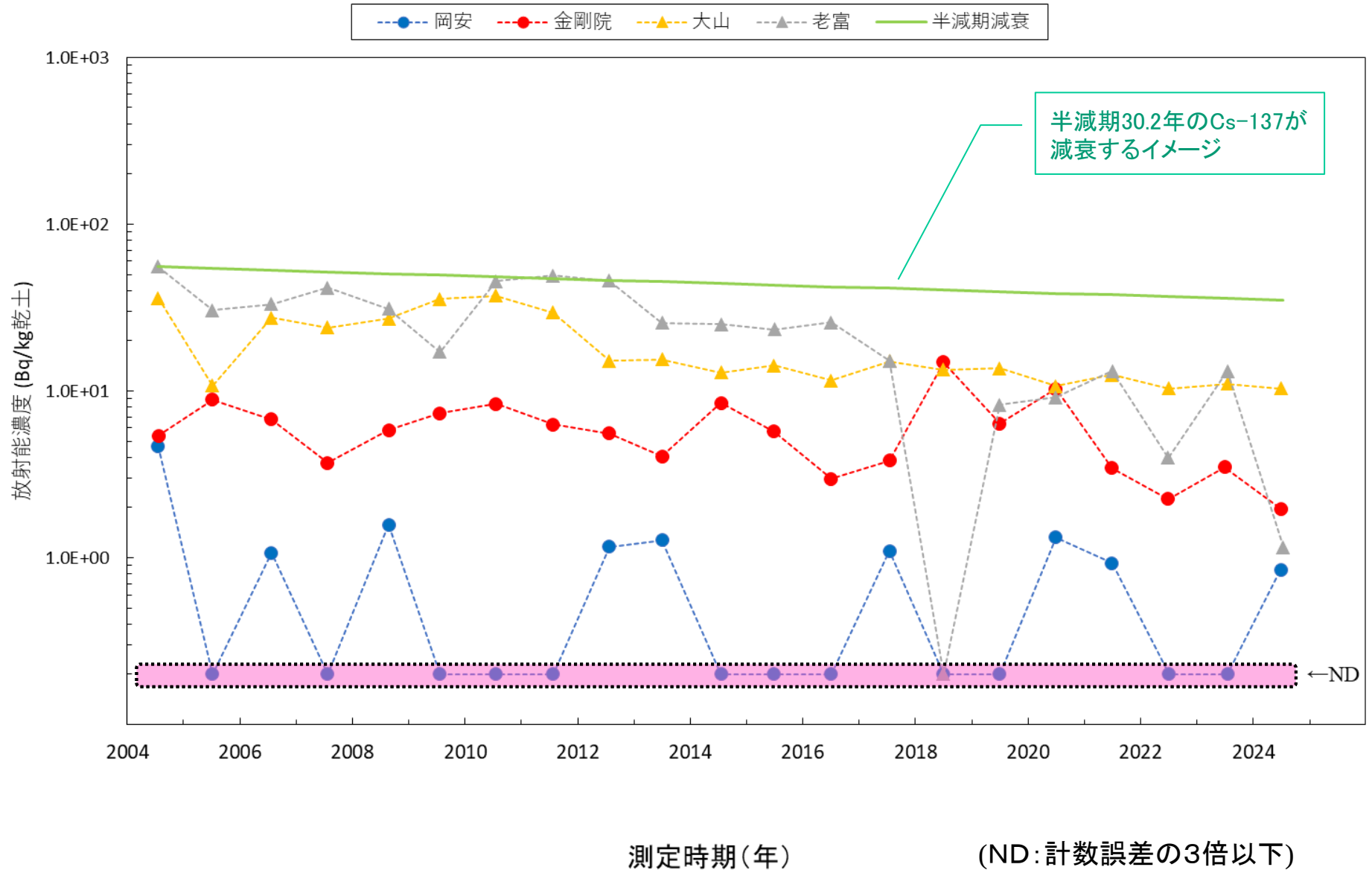
- 陸土、玄米、生椎茸、松葉、よもぎ、めばる(かさご)、なまこ、あじ、うまづらはぎ、海水、海底沈積物
→ 過去と同程度のCs-137を検出。
- その他
→ 人工放射性核種は計数誤差の3倍以下。

(資料3－2 p.18-27)

ガンマ線放出核種分析結果

陸土中のCs-137の経年変化

資料3-2 p. 23



陸土中のCs-137の地点別濃度（5年周期地点）

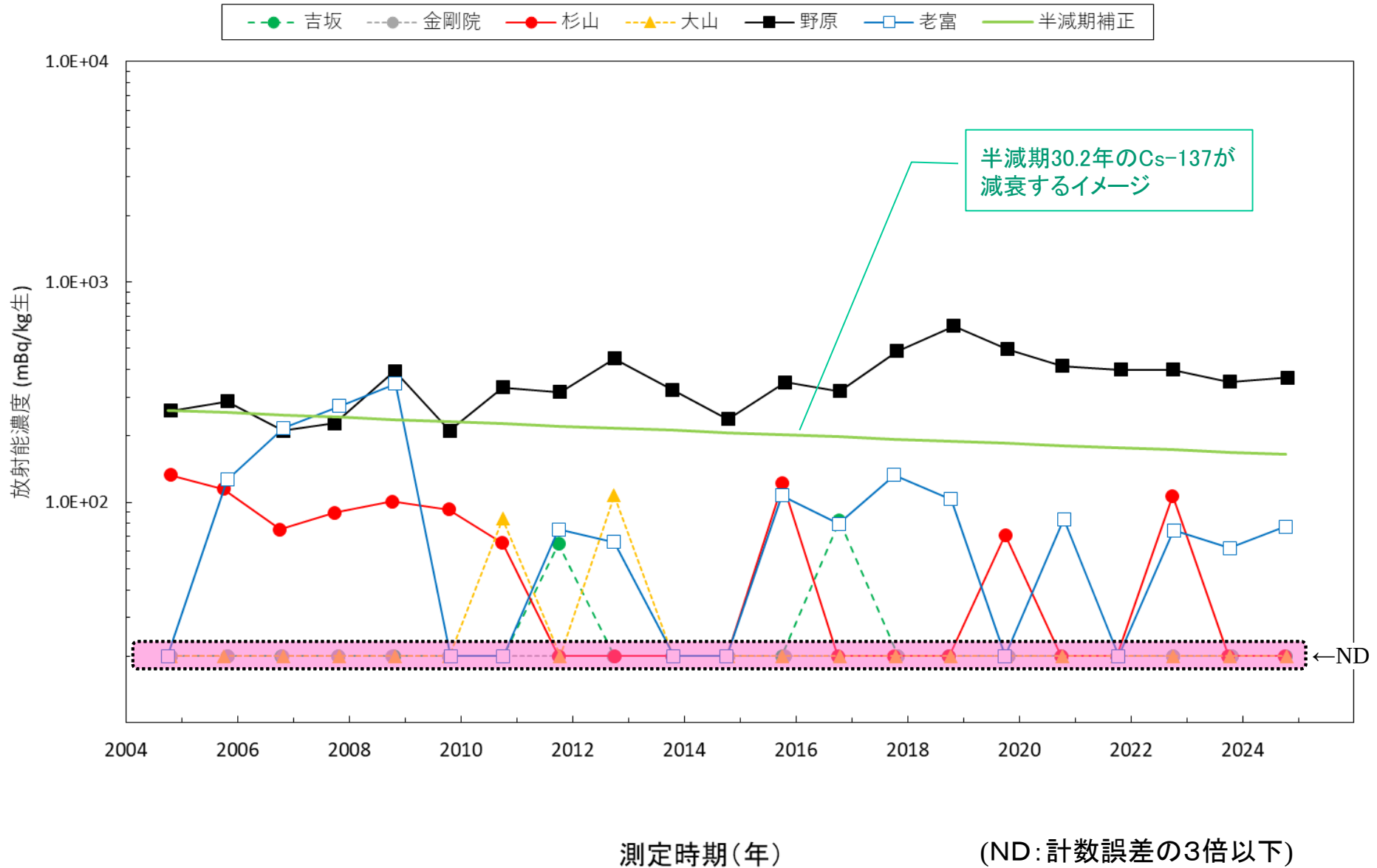
単位：Bq/kg乾土

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
広河原	1.4 ± 0.23					ND
倉梯Ⅱ	2.8 ± 0.25					3.2 ± 0.25
知井	ND					ND
養老	ND					ND
塩汲		3.5 ± 0.29				
岡安Ⅱ		4.0 ± 0.26				
上司		ND				
老富Ⅱ		9.5 ± 0.34				
吉坂Ⅱ			2.1 ± 0.23			
八津合			1.8 ± 0.27			
島			ND			
地頭				6.1 ± 0.33		
相生				1.7 ± 0.22		
上杉				2.3 ± 0.26		
日出				1.6 ± 0.25		
本庄					1.8 ± 0.22	
三浜					ND	
神崎					ND	

注：測定値 $N \pm \Delta N$ において ΔN は計数誤差であり、 $N \leq 3 \times \Delta N$ のとき「検出限界以下」として、「ND」で表している。

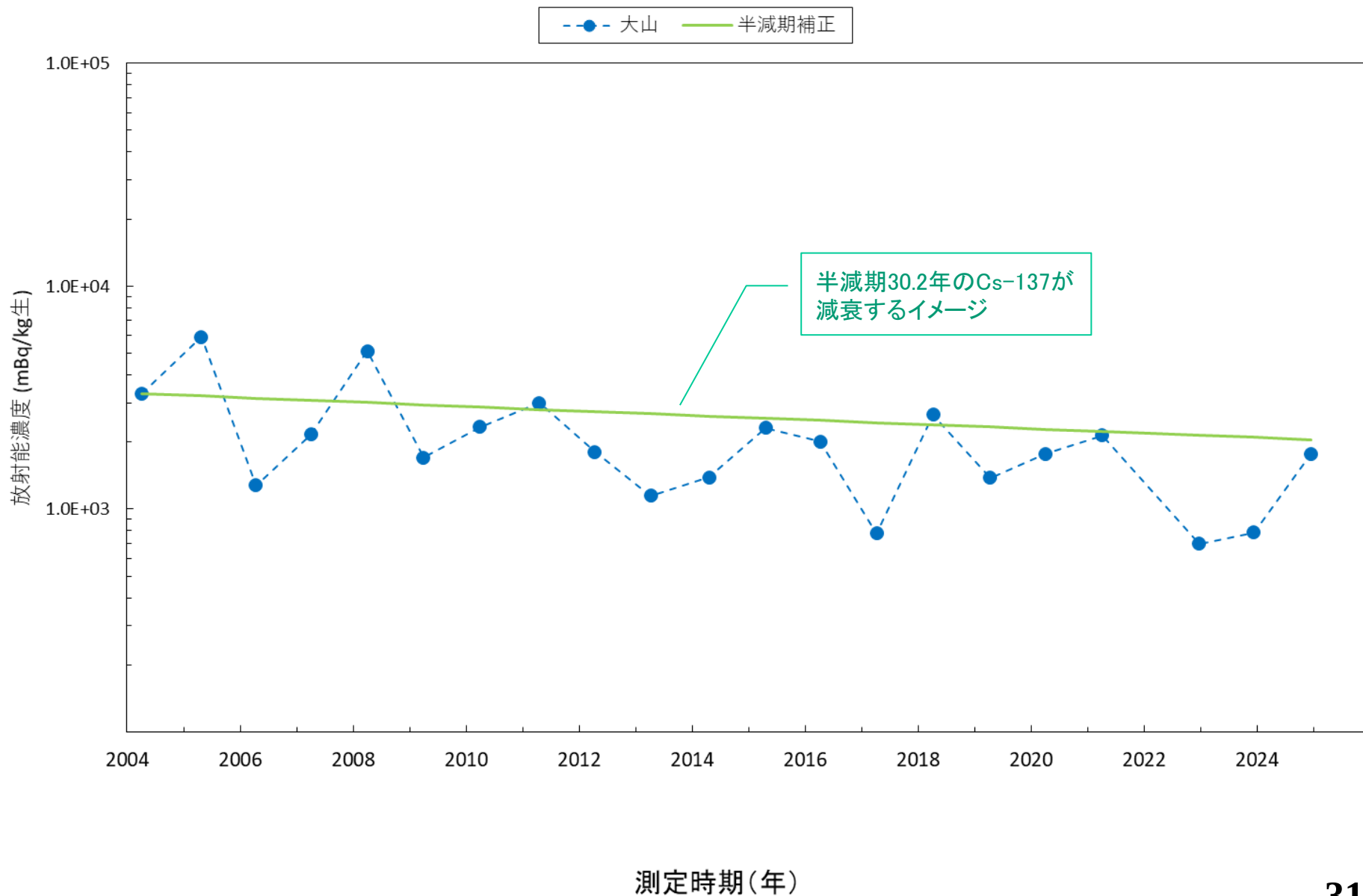
ガンマ線放出核種分析結果 玄米中のCs-137の経年変化

資料3-2 p. 24



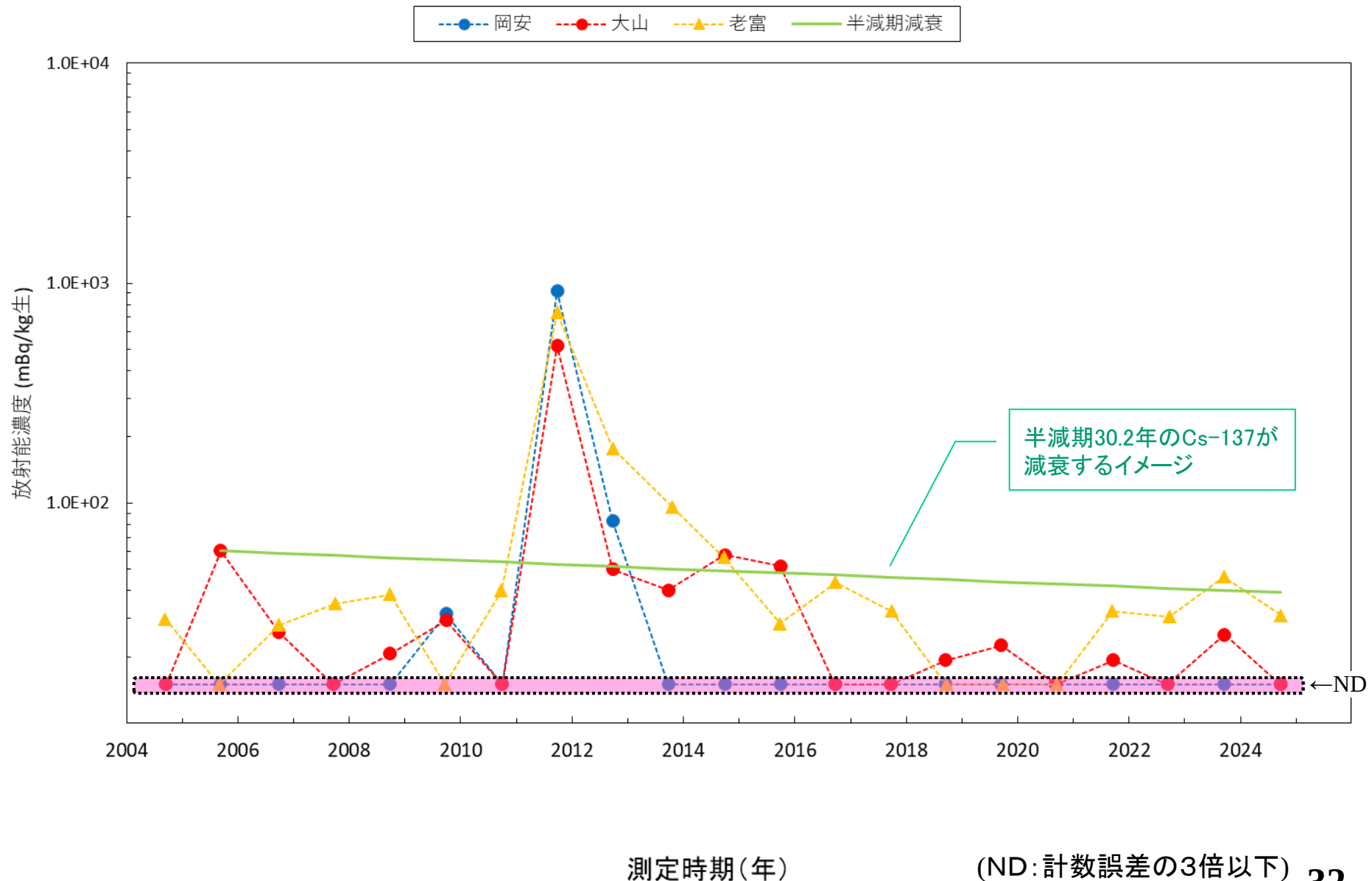
ガンマ線放出核種分析結果 生椎茸中のCs-137の経年変化

資料3-2 p. 24



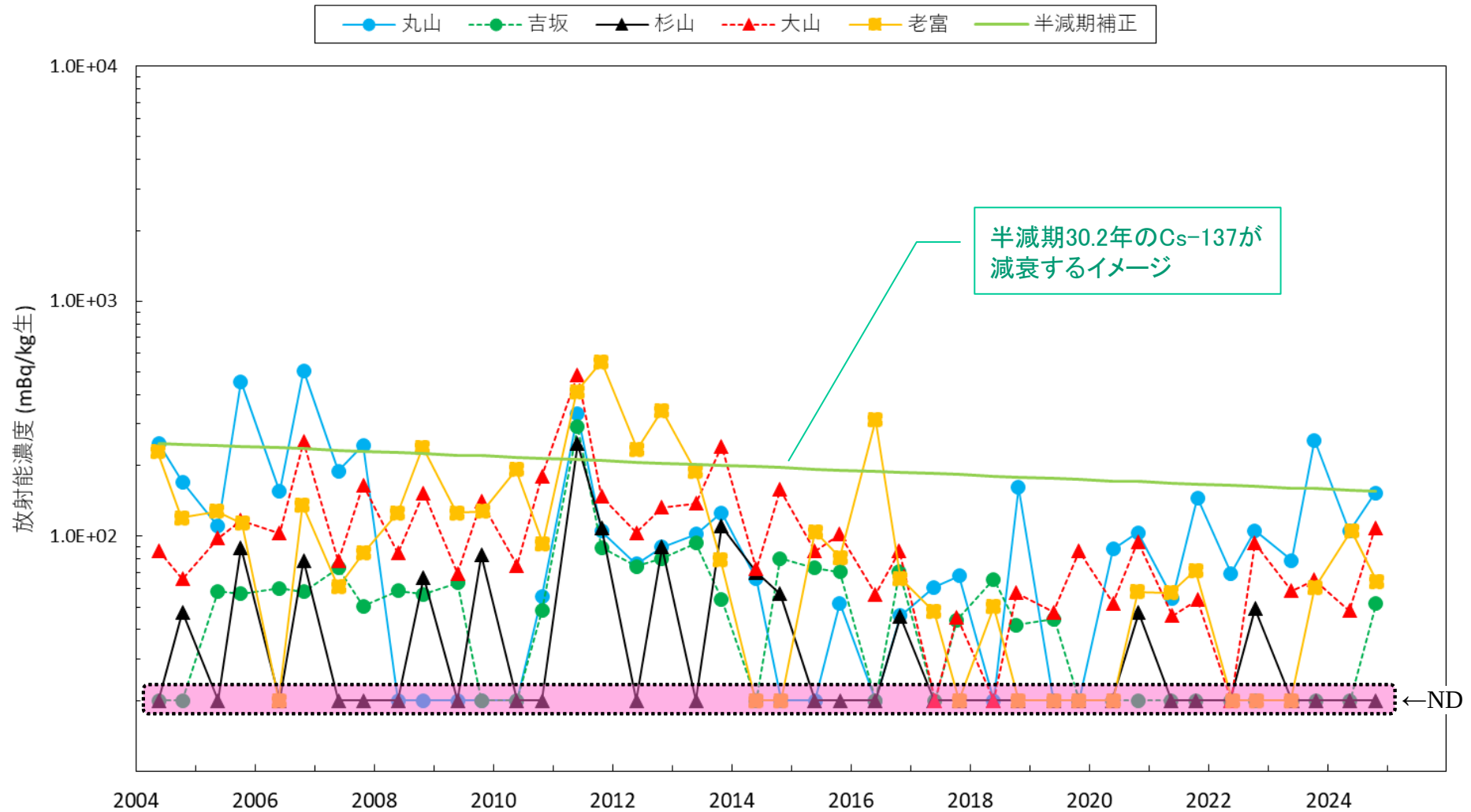
ガンマ線放出核種分析結果 松葉中のCs-137の経年変化

資料3-2 p. 25



ガンマ線放出核種分析結果 よもぎ中のCs-137の経年変化

資料3-2 p. 25

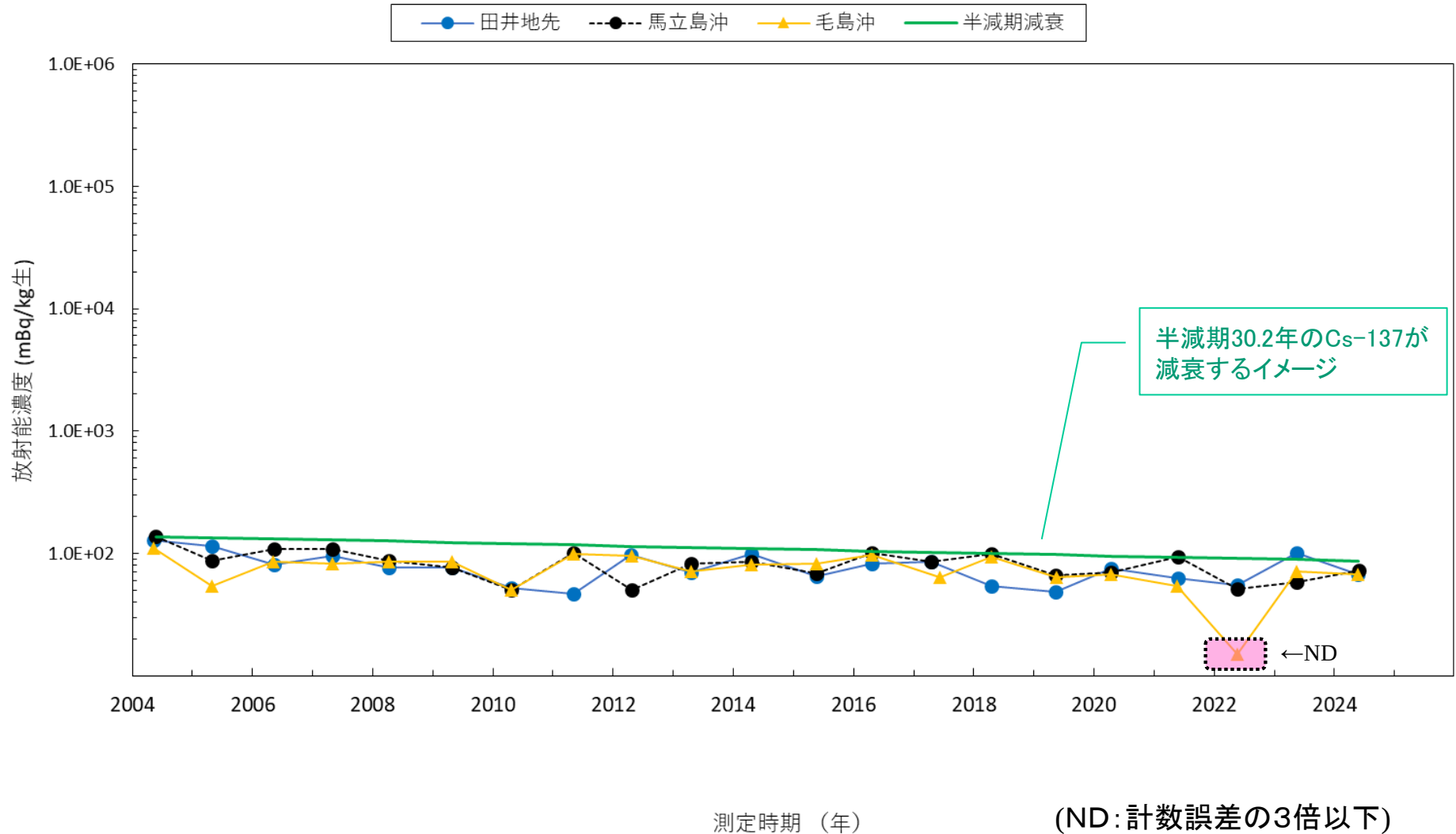


測定時期(年)

(ND: 計数誤差の3倍以下)

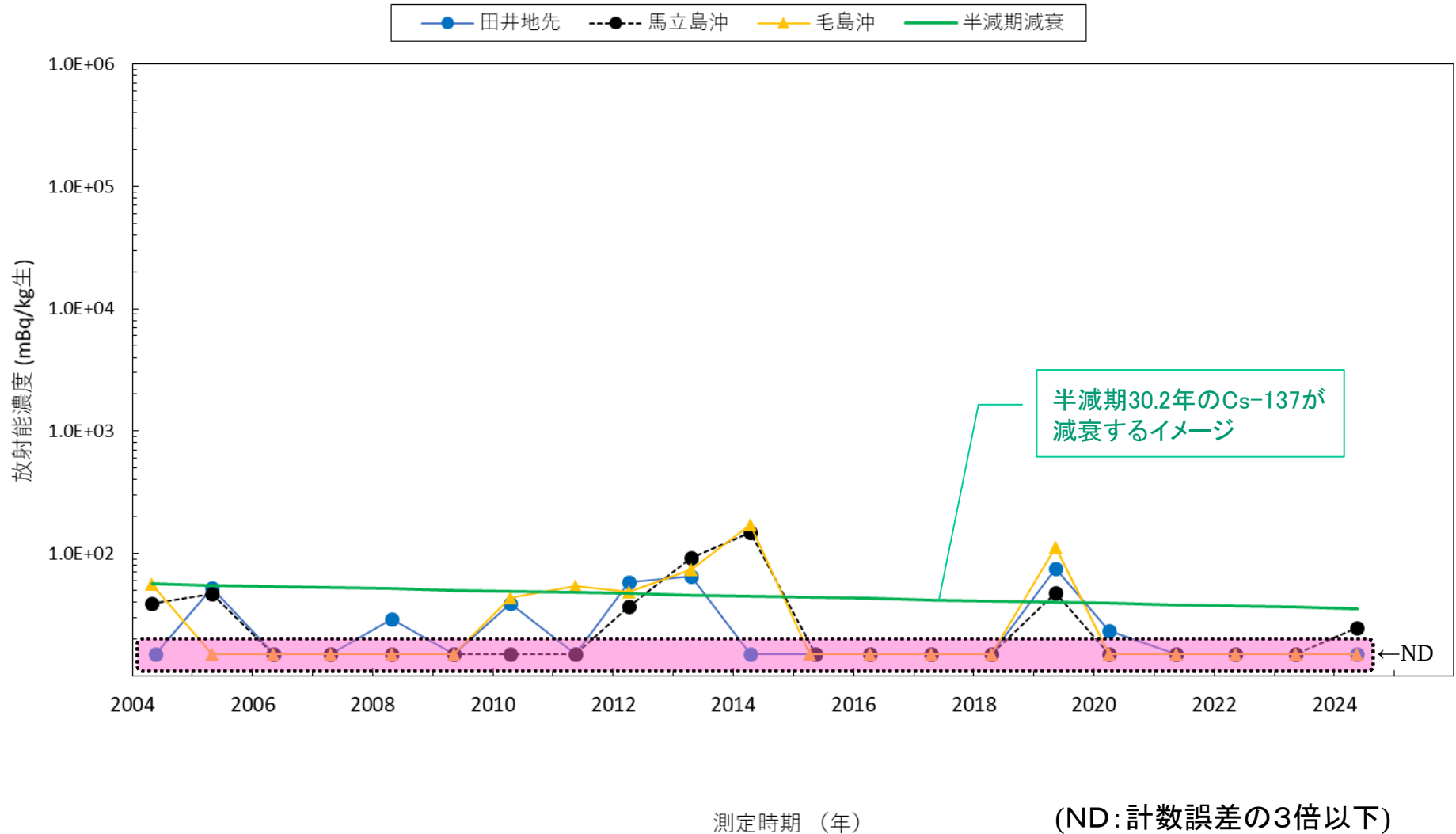
ガンマ線放出核種分析結果

めばる中のCs-137の経年変化



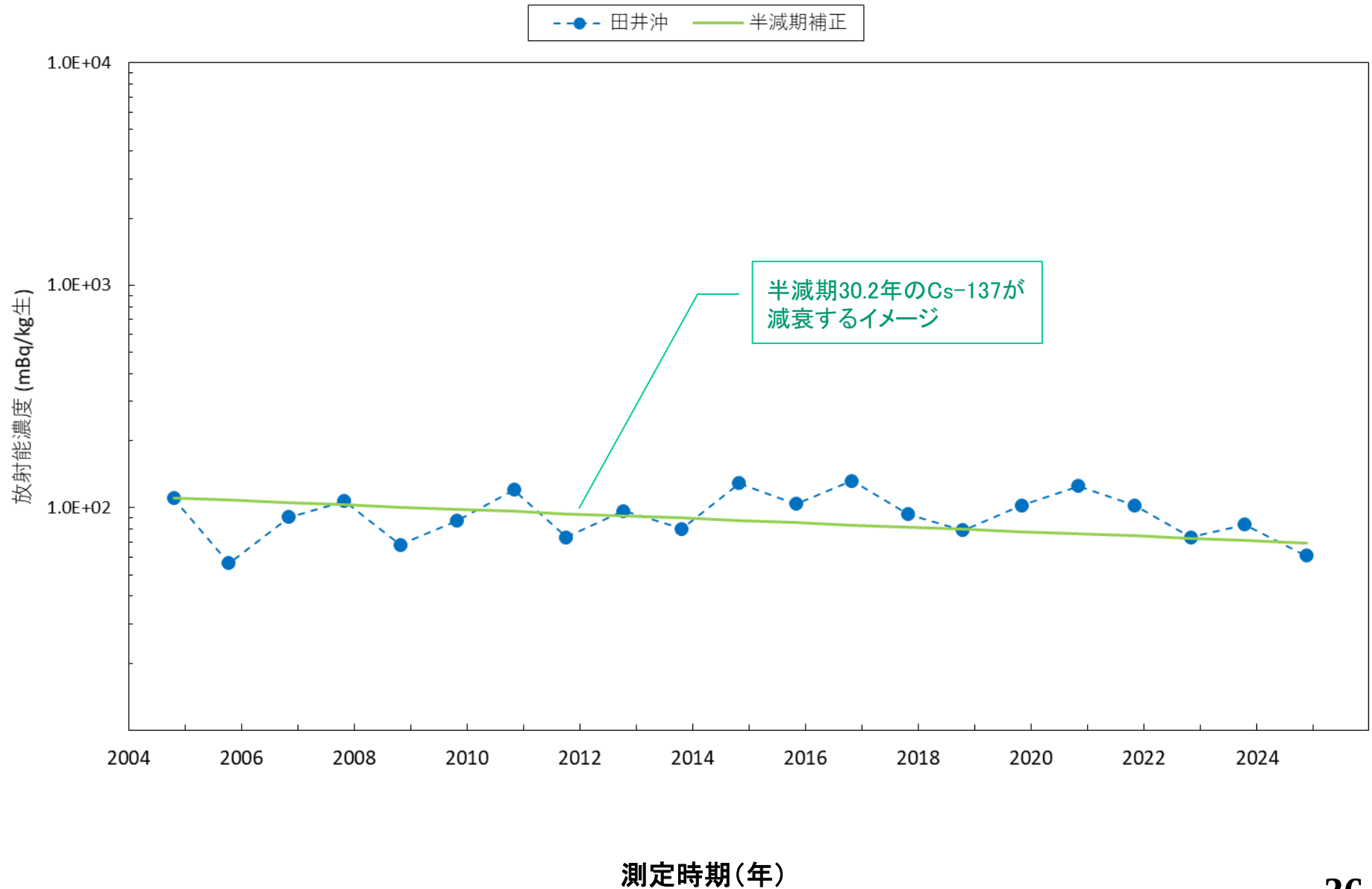
ガンマ線放出核種分析結果

なまこ中のCs-137の経年変化



ガンマ線放出核種分析結果 あじ中のCs-137の経年変化

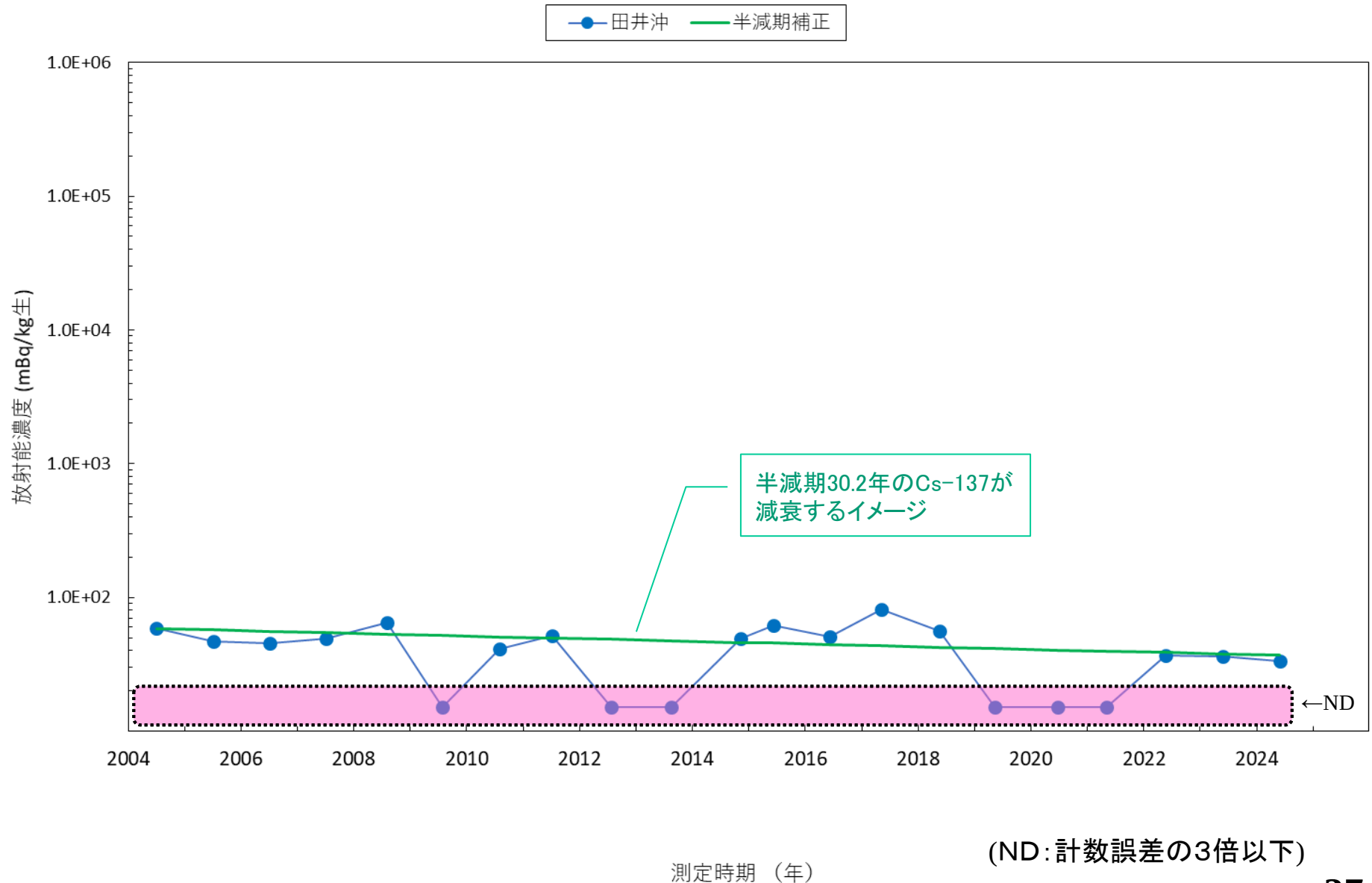
資料3-2 p. 26



ガンマ線放出核種分析結果

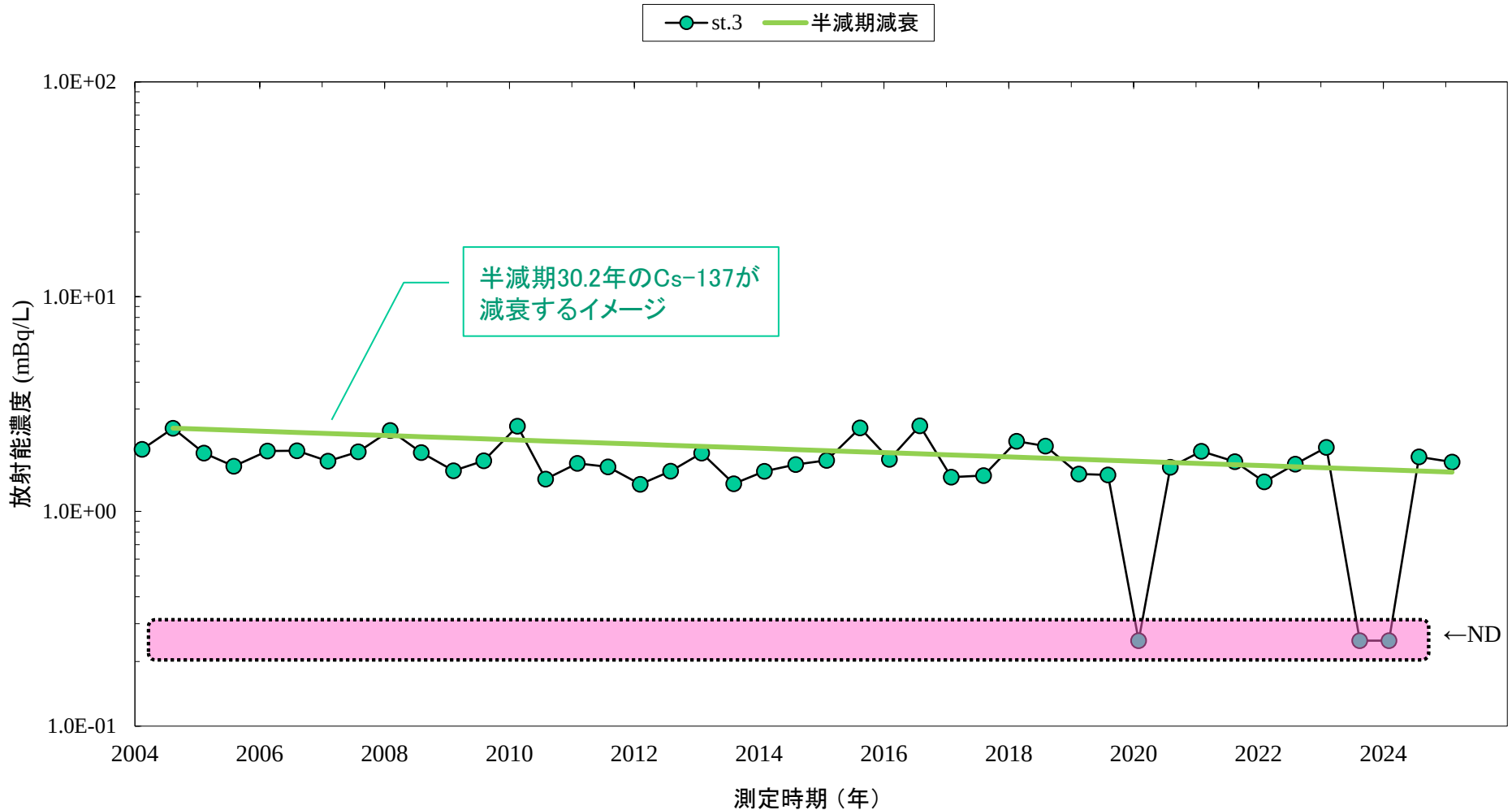
うまづらはぎ中のCs-137の経年変化

資料3-2 p. 26



海水中のCs-137の経年変化

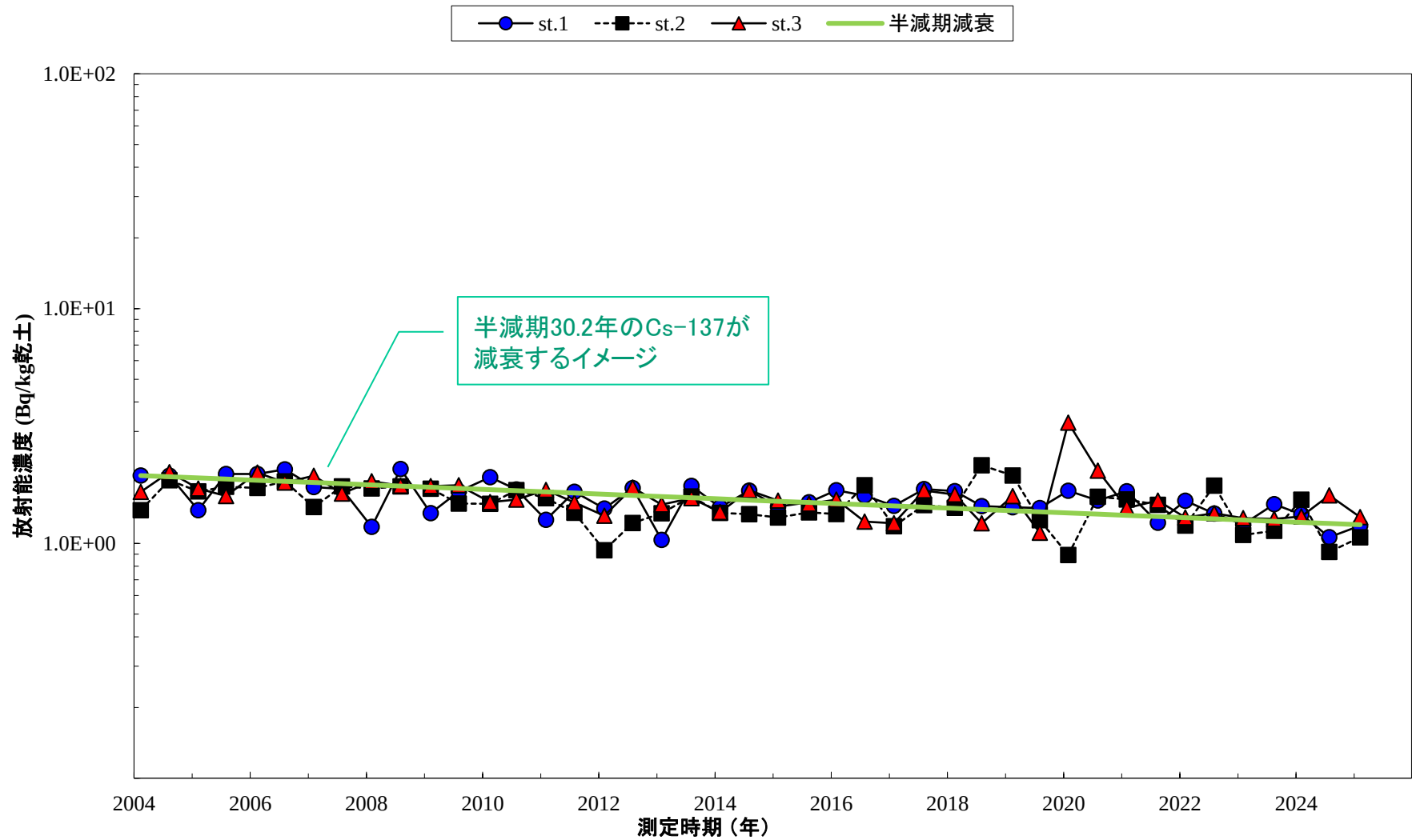
ガンマ線放出核種分析結果



(ND: 計数誤差の3倍以下)

ガンマ線放出核種分析結果

海底沈積物中のCs-137の経年変化



ガンマ線放出核種分析結果

- 放射性ガス状ヨウ素
すべての測定で計数誤差の3倍以下であった。

(資料3－2 p.28)

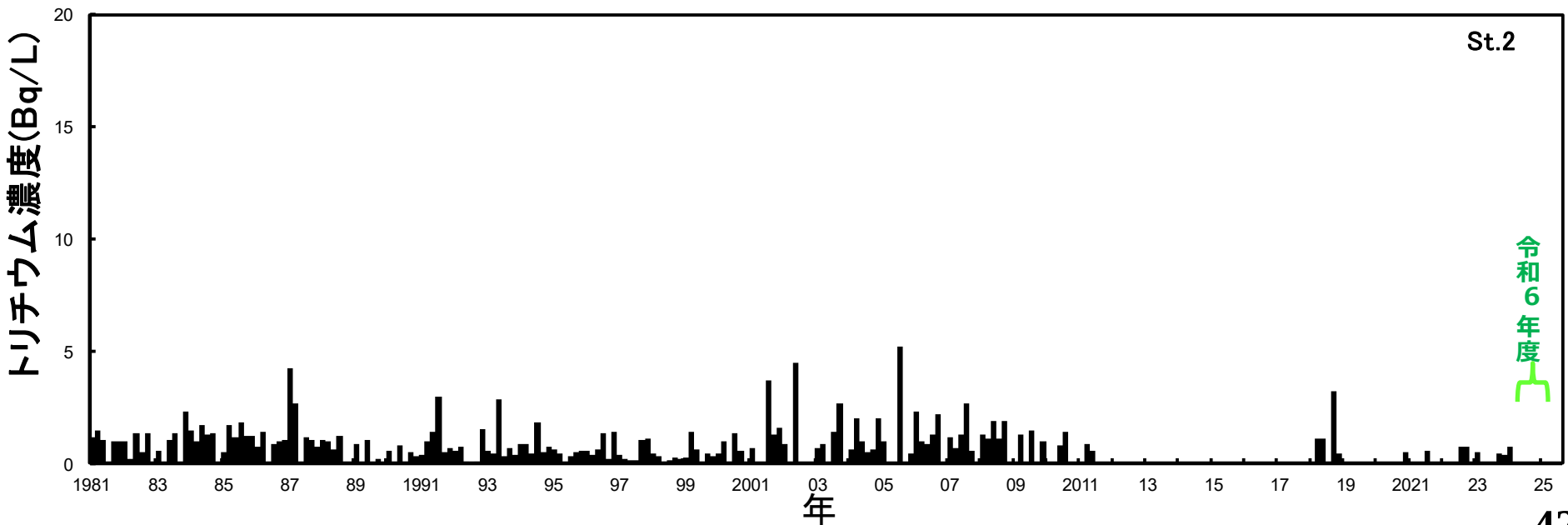
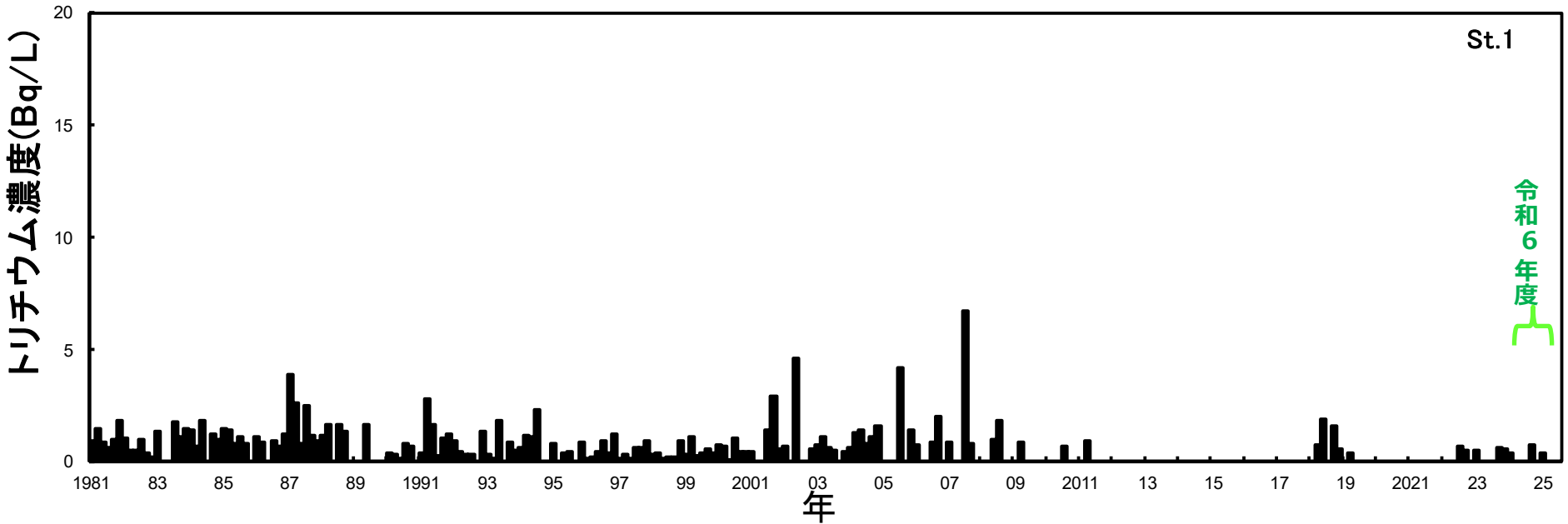
トリチウム分析結果

- 海水及び陸水から検出されたトリチウムは、いずれも過去10年間の変動の範囲内であった。

(資料3－2 p.29)

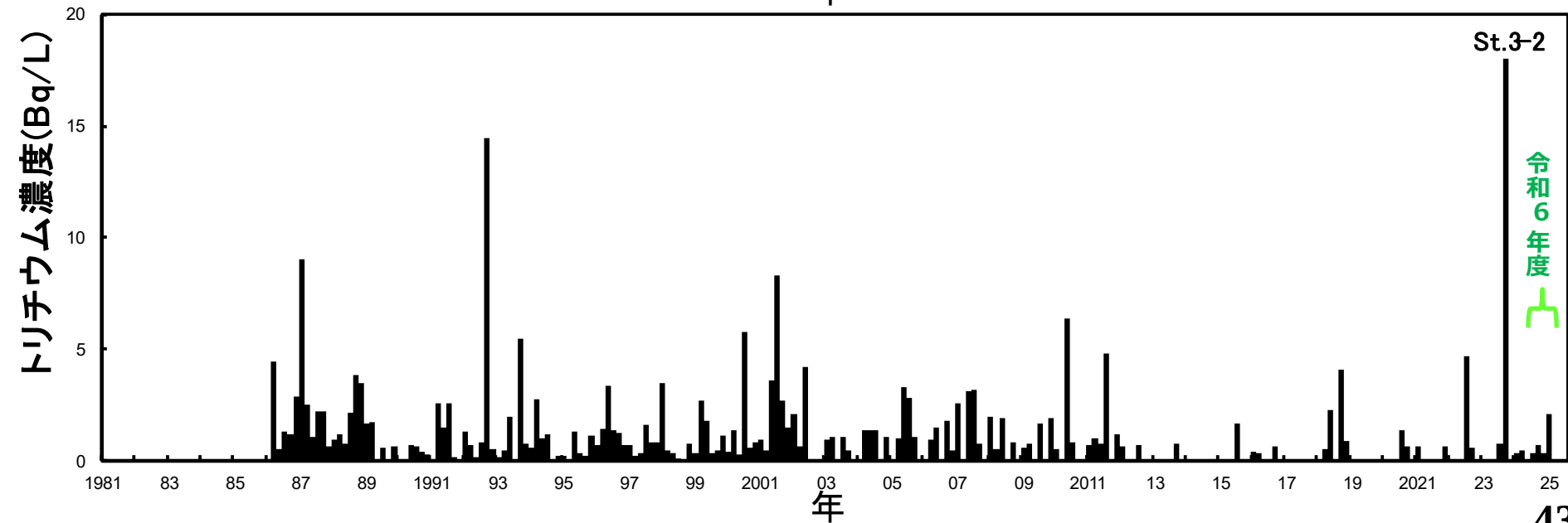
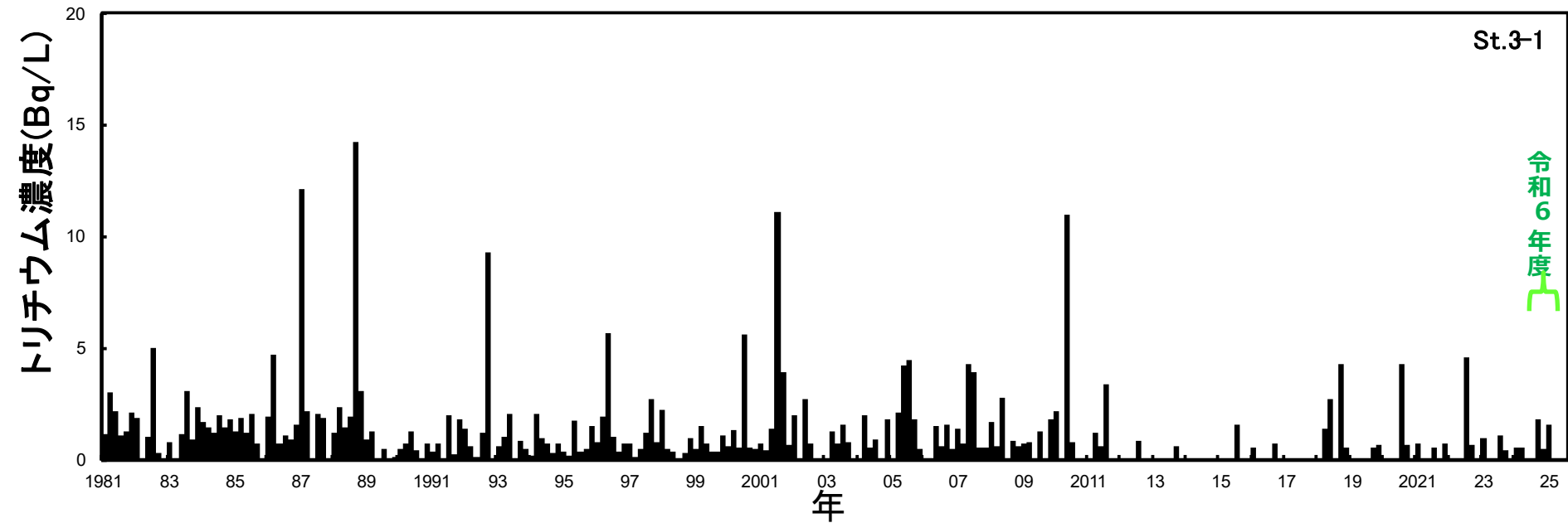
海水中のトリチウム濃度の経年変化

資料3-2 p. 29



海水中のトリチウム濃度の経年変化

資料3-2 p. 29



ストロンチウム-90

- 過去に検出された程度の濃度か、計数誤差の3倍以下であった。

(資料3-2 p.30)

被ばく線量の評価

- 自然放射線以外の影響による地域の公衆被ばく線量は、外部被ばく及び内部被ばくを合わせても、 1mSv/年 はもとより、発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値($50\text{ }\mu\text{Sv/年}$)についても十分下回っていた。

令和6年度
(令和6年4月～令和7年3月)

**環境放射線測定結果は
以上のとおりでした。**